

# インターナショナルオフィス年報

創刊号 (2009年度)

## 【巻頭言】

### 【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】

インターナショナルオフィス組織図	2
学術交流協定一覧	3
平成 21 年度国際交流資金事業実施状況	5
平成 21 年度年間行事	6
2009 年度学長等表敬訪問	7
平成 21 年度学長主催外国人留学生交歓会	9

### 【国際研究支援センターに関わる報告】

オフィス・ウィーク(2010年2月9日～16日)と「国際戦略」について	10
第3回チェンマイ大学・香川大学共催シンポジウムの開催進捗状況	18
学術交流協定大学との交流状況	19
外国人研究者等の受け入れ状況	21
平成 21 年度国際学会・シンポジウム開催状況	23

### 【留学生センターに関わる報告】

日本語教育カリキュラム等の報告	24
相談(交流推進)事業の報告	28
海外語学研修プログラムの報告	30
海外語学研修に関するオーストラリア4大学での現地視察	32
「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業の報告	35
「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業の報告	39
第10回日本語語学研修プログラム報告	42
第11回日本語語学研修プログラム報告	46
2009年度短期(6ヶ月)日本語プログラム報告	50
留学生対象各種進学説明会	52
2009年度日本留学フェア	53

### 【資 料】

インターナショナルオフィス規則	55
インターナショナルオフィス会議規程	58
国際研究支援センター規程	60
留学生センター規程	62
教職員一覧	64

# 香川大学インターナショナルオフィス年報

創刊号（2009年度）

## 【巻頭言】

## 【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】

インターナショナルオフィス組織図	2
学術交流協定一覧	3
平成 21 年度国際交流資金事業実施状況	5
平成 21 年度年間行事	6
2009 年度学長等表敬訪問	7
平成 21 年度学長主催外国人留学生交歓会	9

## 【国際研究支援センターに関わる報告】

オフィス・ウィーク（2010年2月9日～16日）と「国際戦略」について	10
第3回チェンマイ大学・香川大学共催シンポジウムの開催進捗状況	18
学術交流協定大学との交流状況	19
外国人研究者等の受け入れ状況	21
平成 21 年度国際学会・シンポジウム開催状況	23

## 【留学生センターに関わる報告】

日本語教育カリキュラム等の報告	24
相談（交流推進）事業の報告	28
海外語学研修プログラムの報告	30
海外語学研修に関するオーストラリア4大学での現地視察	32
「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業の報告	35
「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業の報告	39
第10回日本語語学研修プログラム報告	42
第11回日本語語学研修プログラム報告	46
2009年度短期（6ヶ月）日本語プログラム報告	50
留学生対象各種進学説明会	52
2009年度日本留学フェア	53

## 【資料】

インターナショナルオフィス規則	55
インターナショナルオフィス会議規程	58
国際研究支援センター規程	60
留学生センター規程	62
教職員一覧	64

## 巻 頭 言

オフィス長 田 港 朝 彦

平成21年4月、村山前オフィス長の下で、香川大学インターナショナルオフィス(KUIO)が発足しました。現在設立2年目を迎え、本学の国際化の基本方針である「地域に根ざした国際化」、「国際的通用性を備える人材の育成」、「国際化のための環境整備」をいかにして本学の教育研究活動に浸透させ、また、教育研究の成果として具現化させるかということに日々腐心しております。

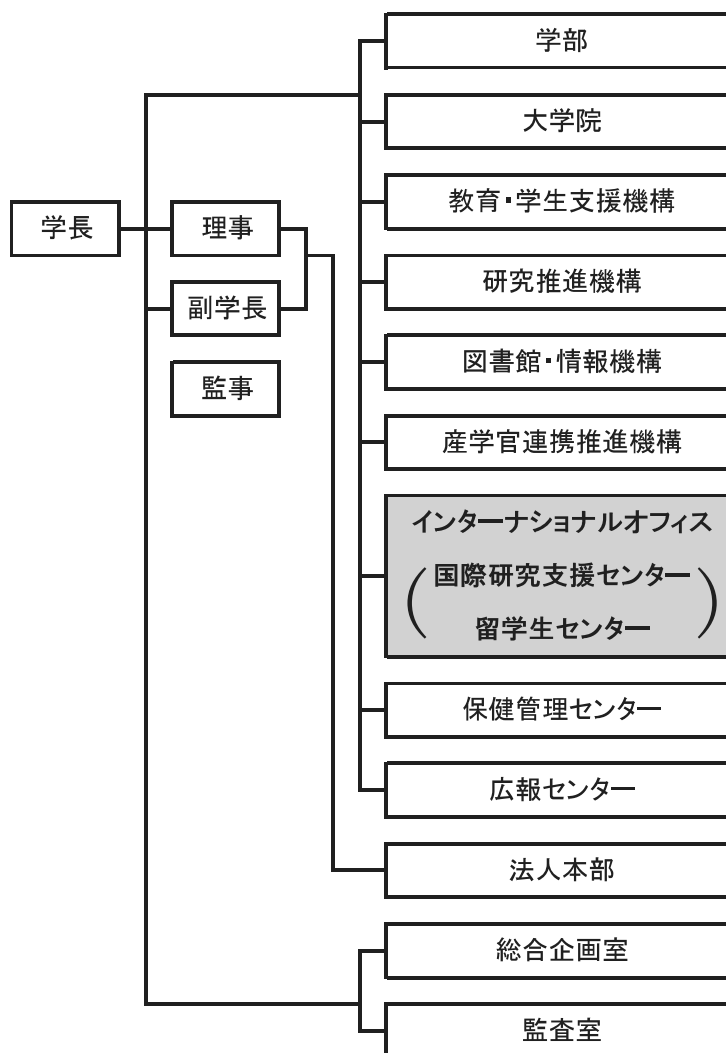
設立に際しては、本学の国際化を推進するため、学生交流の機能と学術交流の機能を一体化し、それらが1つの部局において担われるような組織を作る、ということによって様々な観点からインターナショナルオフィスのあり方が議論されてきました。

その中で、刊行物に関しても、従来の『留学生センター紀要』同様の形態ではなく、『インターナショナルオフィスジャーナル』と『インターナショナルオフィス年報』の2種類を発行し、前者はより学術的な内容を、後者は報告および資料を扱うこととなりました。

インターナショナルオフィスという、全国的にも珍しい形態の組織ではありますが、大学の様々な面での国際化を推進するという任務は、教育・研究を担う機関にとって欠かすことのできないものであり、その重要性は今後ますます増大していくと考えられます。

本年報が、設立1年目の資料として、学内・学外において何らかのお役に立つことができれば幸甚に存じます。

## インターナショナルオフィス組織図



## 学術交流協定一覧

(2010年3月31日現在)

### ●大学間協定〔11カ国・地域 28機関〕

機 関 名	国・地 域 名	大学間協定締結年月日	実施細則等締結部局
カセサート大学	タ イ 王 国	1988年8月25日 再締結(1999年1月20日)	農学部、大学院農学研究科
チェンマイ大学	タ イ 王 国	1990年4月24日	農学部、大学院農学研究科 工学部、大学院工学研究科
ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年9月2日	法学部、大学院法学研究科
サボア大学	フランス共和国	2000年3月24日	工学部、大学院工学研究科
南京農業大学	中華人民共和国	2001年7月4日	農学部、大学院農学研究科
ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月13日	工学部、大学院工学研究科
メチョー大学	タ イ 王 国	2002年3月7日	農学部、大学院農学研究科
国立政治大学	台 湾	2002年3月19日	法学部、大学院法学研究科
ライン・マイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年9月23日	経済学部、大学院経済学研究科 農学部
コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月8日	-
韓国海洋大学	大 韓 民 国	2002年12月18日	工学部、大学院工学研究科
上 海 大 学	中華人民共和国	2003年9月1日	工学部、大学院工学研究科 経済学部、大学院経済学研究科
ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年2月23日	工学部、大学院工学研究科 大学院地域マネジメント研究科
大 邱 大 学	大 韓 民 国	2005年5月17日	経済学部
カデイス大学	ス ペ イ ン	2006年1月31日	農学部、大学院農学研究科
南ソウル大学	大 韓 民 国	2006年3月7日	工学部、大学院工学研究科 経済学部
中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	法学部、大学院法学研究科
アアルト大学科学技術学校	フィンランド共和国	2007年3月13日	農学部、大学院農学研究科
真 理 大 学	台 湾	2007年6月11日	経済学部
西 北 大 学	中華人民共和国	2007年10月17日	経済学部
南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日	-
ハンバット大学	大 韓 民 国	2008年11月14日	工学部、大学院工学研究科
北京工業大学	中華人民共和国	2008年12月11日	工学部、大学院工学研究科
電子科技大学	中華人民共和国	2009年6月1日	工学部、大学院工学研究科
天津農学院	中華人民共和国	2009年6月4日	農学部、大学院農学研究科
フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年7月24日	工学部、大学院工学研究
ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年11月8日	-
チュラロンコン大学	タ イ 王 国	2010年2月1日	-

●部局間協定〔12カ国・地域 23機関〕

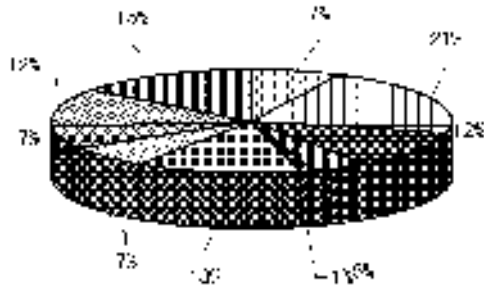
部 局 名	機 関 名	国・地 域 名	部局間協定締結年月日
教育学部、大学院教育学研究科	誠信女子大学美術学部、造形大学院	大 韓 民 国	2001年 3 月14日
教 育 学 部	清 州 大 学 人 文 学 部	大 韓 民 国	2001年 7 月 9 日
教 育 学 部	クライストチャーチポリテクニク工科大学人文学部	ニュージーランド	2002年 1 月23日
教育学部、大学院教育学研究科	江西師範大学国際教育学院	中 華 人 民 共 和 国	2005年 2 月25日
法学部、大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中 華 人 民 共 和 国	1996年 9 月 2 日
法学部、大学院法学研究科	華 東 政 治 法 律 大 学	中 華 人 民 共 和 国	1996年 9 月 5 日
経済学部、大学院経済学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学経済学部	ドイ ツ 連 邦 共 和 国	2000年12月15日
医 学 部	カ ル ガ リ 大 学 医 学 部	カ ナ ダ	1989年 7 月31日
医 学 部	中 国 医 科 大 学	中 華 人 民 共 和 国	1997年 8 月28日
医 学 部	河 北 医 科 大 学	中 華 人 民 共 和 国	2001年11月27日
医 学 部	ブルネイ・ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年12月 5 日
工 学 部	ブリティッシュ・コロンビア大学応用科学部	カ ナ ダ	2001年 7 月31日
工学部、大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学	ドイ ツ 連 邦 共 和 国	2002年 2 月12日
工学部、大学院工学研究科	長春理工大学工科系学院	中 華 人 民 共 和 国	2007年 7 月16日
工学部、大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院大学	フ ラ ン ス 共 和 国	2009年 1 月28日
工学部、大学院工学研究科	ト レ ド 大 学	ア メ リ カ 合 衆 国	2009年 3 月30日
工学部、大学院工学研究科	ロバニエミ応用科学大学	フ ィ ン ラ ン ド 共 和 国	2009年 6 月 1 日
農学部、大学院農学研究科	ダ ッ カ 大 学 生 物 科 学 部	バ ン グ ラ デ シ ュ 人 民 共 和 国	1998年12月15日
農学部、大学院農学研究科	ミシガン州立大学農学・自然資源学部	ア メ リ カ 合 衆 国	1999年 3 月22日
農学部、大学院農学研究科	ボゴール農業大学農学部、大学院研究科	イ ン ド ネ シ ア 共 和 国	2000年 6 月13日
農学部、大学院農学研究科	西オーストラリア大学自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年 3 月28日
農学部、大学院農学研究科	浙江工商大学食品及び生物工程学院、大学院研究科	中 華 人 民 共 和 国	2002年 9 月12日
農学部、大学院農学研究科	河南農業大学林学園芸学院、大学院研究科	中 華 人 民 共 和 国	2006年 9 月 4 日

●連携協力協定（2件）

協 定	連携協力機関	締結年月日
国際メカトロニクス研究 教育機構に関する一般協定	サボア大学、国立高等精密機械大学院大学、 フランシュ・コンテ大学、電気通信大学、東 京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院 大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、 コンピエーネ技術大学	2009年 1 月 30 日
地球ディベロプメントサイ エンス国際コンソーシアム の設立に関する一般協定	グラム・バンガラ	2010年 2 月 16 日

平成 21 年度香川大学国際交流資金事業実施状況

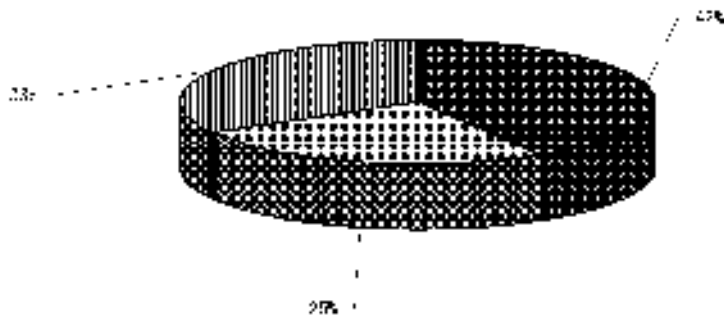
平成 21 年度香川大学国際交流資金各事業実施割合



- 外国人研究者等招へい援助事業
- 外国人留学生奨学援助事業(A)
- 外国人留学生奨学援助事業(B)
- 教職員海外派遣援助事業
- 外国へ留学する学生援助事業
- 国際共同研究
- 国際交流に必要な海外援助事業
- 本学学生のために外国における学会費援助事業
- 交流協定校への短期訪問援助事業
- その他

事業名	実行額(千円)	割合
外国人研究者等招へい援助事業	590	7%
外国人留学生奨学援助事業(A)	1,300	21%
外国人留学生奨学援助事業(B)	380	12%
教職員海外派遣援助事業	100	3%
外国へ留学する学生援助事業	100	1%
国際共同研究	1,123	13%
国際交流に必要な海外援助事業	574	7%
本学学生のために外国における学会費援助事業	300	7%
交流協定校への短期訪問援助事業	1,000	12%
その他	1,202	15%
計	9,402	100%

平成 21 年度香川大学国際交流資金各事業実施割合



- 学生・留学生に対する援助
- 研究に対する援助
- その他

事業名	実行額(千円)	割合
学生・留学生に対する援助	3,700	41%
研究に対する援助	2,191	25%
その他	2,308	33%
計	9,402	100%

## 平成 21 年度インターナショナルオフィス年間行事

月 日	行 事
4月5日(日)	春期新入留学生ガイダンス、歓迎会(KUFSAとICES主催)
4月6日(月)	留学生センター日本語研修コース(H21.4~H21.9)開講式
4月6日(月)~4月16日(木)	平成21年度国際交流資金「外国人留学生奨学援助事業(A)」[交流協定校への短期訪問援助事業]募集期間
5月13日(水)	海外語学研修(英語)ガイダンス、研修生の帰国報告会
5月16日(土)	アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業 四国地域合同開講式
6月1日(月)	本学と中国電子科技大学との学術交流協定等 締結
	本学工学部等とロバニエミ応用科学大学との学術交流協定等 締結
6月4日(木)	本学と天津農学院との学術交流協定等 締結
6月5日(金)~6月19日(金)	平成21年度国際交流資金「本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業」募集期間
6月6日(土)	香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部設立総会
6月18日(木)	本学と大邱大学との学生交流プログラムに関する実施細則 調印式
6月29日(月)~7月24日(金)	第10回日本語語学研修プログラム(4W)
7月5日(日)	日帰り旅行(KUFSAとICES主催) 直島
7月6日(月)	海外語学研修(韓国語)ガイダンス
7月12日(日)	「外国人学生のための進学説明会」(大阪)
7月18日(土)・19日(日)	日本留学フェア(台湾：高雄,台北)
7月24日(金)	本学とフランシュ・コンテ大学との学術交流協定等 締結
8月~9月	インターンシップ事業(アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業)
9月8日(火)	アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業 香川地域連絡会
9月12日(土)・13日(日)	日本留学フェア(韓国：釜山,ソウル)
9月28日(月)・29日(火)	第1回外国人留学生課外教育行事(1泊：奈良)
10月1日(木)	2009年度短期(6ヶ月)日本語プログラム(H21.10~H22.3)開講式
10月13日(月)	留学生センター日本語研修コース(H21.10~H22.3)開講式
10月10日(土)	秋期新入留学生ガイダンス、チューター説明会、情報交換会
10月16日(金)	外国人留学生インターンシップ体験発表会・留学生採用支援セミナー(アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業)
10月24日(土)	留学生のための就職支援ガイダンス(アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業)
10月31日(土)	ブルネイ・ダルサラーム大学卒業式・本学学長他出席
	特別講演「アフガンに命の水を(講師：福元 満治)」(インターナショナルオフィス主催)
11月2日(月)	第2回外国人留学生課外教育行事(日帰り：徳島)
11月8日(日)	本学とブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流に関する覚書 調印式
11月12日(木)13日(金)	国費(学部進学)留学生への大学進学説明会(大阪)
11月16日(月)~18日(水)	第2回JSPS International Forum : Roles of Universities in Community / Regional Development(タイ：チェンマイ)参加
11月18日(水)	海外語学研修ガイダンス
11月18日(水)	香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会
11月27日(金)・28日(土)	日本留学フェア(タイ：チェンマイ,バンコク)
12月10日(木)	平成21年度外国人留学生交歓会
1月8日(金)~1月22日(金)	平成22年度国際交流資金事業募集期間
1月9日(土)	留学生お正月会(KUFSA,ICES、ライオンズ、仏生山と綾川国際交流会)
1月15日(金)	企業見学会(アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業)
1月22日(金)	外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会(香川県留学生等国際交流連絡協議会主催)
1月25日(月)~2月5日(金)	第11回日本語語学研修プログラム(2W)
2月9日(火)~2/16(火)	インターナショナルオフィス週間(International Office Week)
	学内シンポジウム-海外交流拠点のあり方-
2月19日(金)	2009年度短期(6ヶ月)日本語プログラム・留学生センター日本語研修コース修了式、2・3月帰国留学生意見交換・反省会(さよならパーティー)
3月16日(火)	香川県留学生等国際交流連絡協議会総会
3月1日	アジア人財資金構想高度実践留學生育成事業 修了式



## 2009 年度学長等表敬訪問

- 5月14日 クライストチャーチ総合技術大学  
林マーケティングマネージャー及び Mark Hornby 人文学科長が学長を表敬訪問  
同大学とは、2002年1月に本学教育学部と学術交流協定を締結し、学生交流を中心に交流している。
- 6月18日 大邱大学  
Lee Yong-Doo 総長外4名が学長を表敬訪問  
同大学とは2005年に大学間交流協定を締結しており、今回全学レベルで学生交流プログラムを締結するために来日したものの。
- 9月24日 ドイツ総領事  
ドイツ連邦共和国総領事館総領事 Alexander Olbrich 氏が学長を表敬訪問  
香川日独協会にて講演等を行った。
- 10月13日 サボア大学  
Laurent Foulloy 教授外3名が学長表敬訪問  
同大学とは2000年に大学間交流協定を締結し、交流を続けているほか、2009年にはサボア大学と本学を幹事校として国際メカトロニクス研究教育機構 (IOREM) に関する一般協定を締結。
- 10月16日 昆明医学院  
Jiang Runsheng 学長外2名が田港副学長を表敬訪問  
今後医学部を中心に交流を行う予定。
- 10月23日 ニューキャッスル大学  
Matthias Schmid 教授が田港副学長を表敬訪問  
同大学は本学と学術交流協定は締結していないが、医学部と学生交流について長年の実績があり、今回も交流打ち合わせのために来学。
- 11月11日 前駐日ブルネイ・ダルサラーム国特命全権大使  
アダナン・ブンター氏が学長を表敬訪問  
本学初の名誉博士称号を授与するための式典に出席するため来学。  
式典の後記念講演を行った。
- 12月3日 ムルシア大学  
ペドロ・ロザノ教授が田港副学長を表敬訪問  
今後、教育学部を中心に交流を行う予定。

1月20日 ブルネイ・ダルサラーム大学

Zohrah binti Hj. Sulaiman 副学長補佐が学長を表敬訪問。

同大学とは2009年11月に大学間交流協定を締結したほか、12月には医学部がブルネイ・ダルサラーム国保健省との協定を締結し、交流を推進している。

2月16日 グラム・バンガラ

グラム・バンガラ議長 S. I. カーン氏が田港副学長を表敬訪問。

地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定の調印を行った。

3月29日 天津農学院

Xing Kezhi 副学長外6名が学長を表敬訪問

同学院は2009年6月に大学間交流協定等を締結し、それまでの農学部との間で締結していた部局間協定からさらに全学的な交流へと発展させている。

## 平成 21 年度学長主催外国人留学生交歓会

外国人留学生・研究者、教職員及びチューター等日本人学生や地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会が、12月10日(木)に大学会館集会室において開催された。

一井学長の挨拶に続き、留学生代表の教育学研究科2年 NGUYEN THI THU NGUYET (グウェン ティ テュ グウェット) さんの挨拶があり、田港副学長の乾杯の音頭で開始された。今回は、留学生の経済学部2年金 漢糾さん、工学研究科博士課程2年楊 斯涛さんら2人が和装をして司会進行を行い、懇談の合間には、恒例のタイ及びバングラディシユの留学生やその子供さんによる民族舞踊、マンドリンクラブによる演奏などの国際色豊かなパフォーマンスが披露され、会場は華やかに盛り上がった。

また、留学生と学長とのじゃんけんゲームでは、最後まで勝ち残った留学生には、学長から香川大学グッズ等のプレゼントが贈呈された。

最後に、マレーシアの民族衣装を身にまとったロン・リム留学生センター長の締め言葉で、閉会を惜しみつつ交歓会が締めくくられた。

本交歓会は学内関係者に加えて、地域の留学生支援団体等の多くの方々約250名が参加し、留学生や教職員にとっても交流の輪が広がり、大変有意義なものとなった。

## オフィス・ウィーク(2010年2月9日～16日)と「国際戦略」について

前オフィス長 村 山 聡

香川大学では2009年4月にインターナショナルオフィスを設置した。

このインターナショナルオフィスの役割、取り組み、そして香川大学の国際戦略に関して、広く議論をする機会を設けるために、オフィス・ウィークを実施することにした。下記のように、2010年2月9日から2月16日にかけての一週間、公開シンポジウム、フォーラム、ワークショップなど様々なイベントを開催し、招待講演者、大学教職員ならびに県内関係者との討議を通じて、香川大学における国際戦略のとりまとめを行うことを目的とした。

### <日程と概要>

2010年2月9日(火) KUIO 学内シンポジウム

香川大学の国際交流の取り組み

香川大学の国際戦略

香川大学の海外教育研究拠点について

2010年2月10日(水) KUIO 学内ワークショップ SD 1

国際関係事務の連携について(1)

2010年2月12日(金) KUIO 学内ワークショップ SD 2

国際関係事務の連携について(2)

2010年2月13日(土)～16日(火)

「香川大学の国際戦略と海外教育研究交流拠点」

KUIO 公開シンポジウム (2月13日開催)

KUIO フォーラム I (2月13日開催)

KUIO 学内ワークショップ SD 3 (2月15日開催)

KUIO フォーラム II (2月15日開催)

総括フォーラム (2月16日開催)

一連のオフィス・ウィークは、学内シンポジウムから始めることにした。インターナショナルオフィスの発足を巡る議論から、香川大学の国際戦略において、「海外教育研究交流拠点」(略称：「海外交流拠点」)の育成が重要な要素になることを念頭において、そもそも「海外交流拠点」とは何なのかを広く伝える必要があった。インターナショナルオフィスでは、2009年度に、特別に委員会を設け、海外交流拠点の定義付けとその意義を検討した。その成果は下記の通りである。

### <本学における海外の「教育研究交流拠点」について>

#### 1. 本学における「海外教育研究交流拠点」の定義

本学インターナショナルオフィスで考えている海外の教育研究交流拠点というのは、特定の交流協定締結校等との密接な関係のもと、教育交流あるいは研究交流を重点的かつ積極的に推進する場

合の相手機関およびその機関と本学との相互関係を指す。すなわち、文部科学省が海外拠点として定義している「我が国の大学等機関が、教育及び学術研究等の国際交流に資するために海外に設置している教育施設、研究施設、事務所等」を指すのではない。

そこで、本学インターナショナルオフィスでは、海外の大学等関係機関とのネットワークの強化を意味する拠点化において、今後は、「海外拠点」という名称ではなく、「海外教育研究交流拠点」という名称を使うことにしたい。なお、本学においても、今後の国際交流の展開においては、サテライトオフィス等が設置される可能性もある。

## 2. 本学の海外教育研究交流拠点の基本原則

- ① 本学の部局は、交流協定において優先すべき重点校あるいは重点機関を決定し、その決定に基づき、インターナショナルオフィスがオフィス会議において審議し、全学における海外教育研究交流拠点として位置づけることができる。
- ② 海外教育研究交流拠点として位置づけようとする高等教育機関等との交流は本学の複数の部局が共同で参画していることが望ましい。
- ③ 海外教育研究交流拠点を提案する部局は、拠点と位置づけたい交流の特徴やメリット、将来性などについて、明確かつ検証可能なビジョンと交流計画をインターナショナルオフィス会議に提示することが必要である。
- ④ また、本学の「地域に根ざした国際化」という現在の香川大学における国際化の基本方針と国際戦略（別記参照）に鑑み、海外教育研究交流拠点との交流は、高等教育機関等との交流に留まらず地域間の交流への道筋や可能性が提示されていることが望ましい。

## 3. 海外教育研究交流拠点の取り扱い

- ① インターナショナルオフィスとして、以下のような支援をする。
  - ・海外教育研究交流拠点については固有のホームページを作成し、交流内容その他の情報の発信および共有を行う。
  - ・海外教育研究交流拠点とのシンポジウムおよびワークショップ開催について、企画段階から支援し、実施する。
  - ・複数の部局が関わるため、情報の一元化を可能とするような情報の共有あるいは種々の調整を行う。
  - ・海外教育研究交流拠点からの研究者および学生の受け入れ、あるいは海外教育研究交流拠点への派遣に関する事務支援を行う。
  - ・海外教育研究交流拠点の位置する地域との連携のための情報収集および新たな交流の展開のための事務支援を行う。
  - ・学内及び学外資金獲得のための支援を行う。ただし、重点的に予算配分をする等の財政的な支援ができるとは限らない。
- ② 5年単位で海外教育研究交流拠点との交流が十分行われているかどうかの評価を行う。一度拠点として位置づけを行った大学等についても、交流実績や大学の方針等によりその位置付けを変更することがある。

参考：文部科学省における「海外拠点」の定義

文部科学省は、平成18年度に「大学等間交流協定締結状況調査」及び「海外拠点の設置に関する状況調査」を行っている。その際、大学等の海外拠点の定義を以下のように定めている。

インターナショナルオフィスが目指している「海外教育研究交流拠点」とは内容を異にしているが、ここでは参考までにその定義を掲載しておく。

我が国の大学等機関が、教育及び学術研究等の国際交流に資するために海外に設置している教育施設、研究施設、事務所等。

主な役割としては、現地における教育の提供、現地の大学及び企業との共同研究の実施及びサポート、現地の留学生及び研究者受入に向けたリクルート活動、日本人留学生の現地支援、現地の教育・研究事情に係る情報収集等。

さて、オフィス・ウィークにおいて、最初に行った「香川大学の国際戦略と海外交流拠点」と題したシンポジウムは、2月9日火曜日の午後半日をかけて、下記のようなプログラムで実施した。

## 第一部 香川大学における国際交流の現状

Part 1 司会：香川大学インターナショナルオフィス

オフィス長 村山 聡

14：10～14：20

インターナショナルオフィス／農学部教授 田村啓敏（遠隔参加）

チェンマイ大学拠点関連、アジア人財関連

14：20～14：40

留学生センター長 ロン・リム

インターナショナルオフィスにおける留学生戦略

14：40～15：00

インターナショナルオフィス／教育学部准教授 高木由美子

教育学部における取り組み

Part 2 司会：インターナショナルオフィス／経済学部教授

ラナデ・ラヴィンドラ・ラグナット

15：00～15：20

インターナショナルオフィス／医学部教授 徳田雅明

ブルネイ大学を中心とした交流

15：20～15：40

インターナショナルオフィス／工学部教授 澤田秀之

サボア大学を中心とした交流

15：40～16：00

インターナショナルオフィス／地域マネジメント研究科教授 板倉宏昭

地域マネジメント研究科における取り組み

16：10～17：50

## 第二部 香川大学の国際戦略と海外教育研究交流拠点

### パネルディスカッション

司 会 徳田・高木

話題提供者

村山 ロン 高水 村上 ラナデ 澤田 板倉 長岡 学生代表

ここで取り上げられた海外教育研究交流拠点（略称＝海外交流拠点）構想は、元々、海外交流拠点として香川大学が選定したチェンマイ大学との交流とその実績から生み出されたものである。現在の大学が海外拠点という場合、多くがサテライトオフィスのようなものを指すと考えられるが、急激なグローバル化現象において、地に足をつけた地域情報が不可欠であることを、地域に根ざし世界に発信することを目標としている香川大学にとっては、非常に大切であることが明らかになったからである。二つの異なった社会の大学の交流は、単に大学という組織体間の交流に留まるべきではないということである。それぞれの大学がそれぞれの地域情報に関して、緻密かつ詳細そして将来に向けての指針を盛り込んだ知識基盤の構築が伴っていることが期待されるからである。大学を取り巻く地域社会に関する綿密な情報蓄積は、世界への扉を開く事にもなるからである。

このような発想は、両大学の教育研究交流に留まらず、もう少し広い視点からも支持されるものであった。香川大学は、2008年9月に、JSPS（＝日本学術振興会）事業でアジア科学技術コミュニティ形成戦略「機動的国際事業」でチェンマイ大学と共催シンポジウムを開催することができた。香川大学が、チェンマイ大学を海外教育研究拠点として重点的な交流を推進して来たことに関連して、さらに、2009年1月にバンコクで開催され、2009年11月にチェンマイで開催された International Forum：Role of Universities in Community/Regional Development にも参加することができた。

これらのフォーラムにおいて、JSPSのバンコク研究連絡センターの池島所長ならびに角田副所長とは、国際共同研究のあり方等について、様々な場面で議論をする機会を得た。そこで、2009年11月のチェンマイでのフォーラムを受けて、さらに議論を展開できないかと、今回のオフィス・ウィークでの企画を実行することとした。

香川大学インターナショナルオフィス（KUIO）では、2010年7月の時点でも、さらに本学の国際戦略ならびに海外教育研究拠点のあり方についても議論を進めているところであるが、本学の教職員及び県内の国際関係協力団体の方々等を対象として香川大学の海外教育研究交流拠点形成・育成をテーマとして、2010年2月9日から16日にかけて、インターナショナルオフィスのオフィス・ウィークと題して、公開シンポジウムならびにフォーラムなど様々なイベントを開催する企画を実

行した。

このオフィス・ウィークの前半は、主に大学教職員のみのもので中心で、12日以降は、JSPS バンコク研究連絡センター所長、副所長を迎え、さらに2009年11月に JSPS 主催のチェンマイでのフォーラムにも参加された三重大学の武田裕子教授をお迎えし、コミュニティ・ベースの地域開発に関する議論をさらに深めることも目的とした。

特に香川大学として重視しているのは、コミュニティ・ベースでの教育研究双方の連携であり、さらに教職員一帯となった国際化の取り組みである。そこで、池島所長ならびに角田副所長には、12日午後から16日午前まで、シンポジウム、フォーラム、FD、SD に参加して頂き、ご講演ならびにご助言を受けることができた。

オフィス・ウィーク（2010年2月9日から16日）における池島所長ならびに角田副所長の日程（2月12日から16日）は以下の通りであった。

○ 2月12日午後14時～18時：KUIO 学内ワークショップ SD 1

池島所長／角田副所長：JSPS バンコクセンターの役割ならびにこれまでの取り組み  
村山 聡（オフィス長）：香川大学における国際戦略と海外教育研究協力拠点の形成  
その他の参加者：KUIO のスタッフ

○ 2月13日午前9時～12時：KUIO フォーラム I

武田裕子（三重大学教授）：コミュニティ・ベースの医療教育モジュール  
徳田雅明（オフィス兼任教員・医学部教授）：香川大学における地域医療の展開  
池島所長／角田副所長：ディスカッサント  
参加者：医学部教員ならびに学生、その他 KUIO スタッフならびに学内関係者

○ 2月13日午後14時から18時：KUIO 公開シンポジウム

「香川大学における国際戦略と海外教育研究協力拠点」  
講演：池島所長：国際的な研究交流における今後の課題  
講演：角田副所長：国際的な研究交流における事務体制の支援について  
村山オフィス長ほか KUIO 教職員：香川大学における国際化の取り組みについて  
参加者：香川大学学長ほか部局長等および教職員、県、市その他国際化関係者

○ 2月14日：視察

香川県における地域活性化の取り組みに関する地元住民等との意見交換  
訪問先：豊島・直島

○ 2月15日：午前9時から12時：KUIO 学内ワークショップ SD 3

「香川大学における国際化の取り組みにおける事務系スタッフの役割」  
講演：角田副所長 JSPS バンコクオフィスの事務サイドからの貢献について  
参加者：KUIO スタッフおよび国際関係業務に携わっている事務系スタッフ



○2月15日：午後14時から18時：KUIO フォーラム II

「グローバル社会の地域研究を考える」

講演：内外の大学からの招待講演者

ディスカッサント：池島所長 JSPS バンコクオフィスの取り組みと今後の課題

参加者：KUIO スタッフおよびその他の教員

○2月16日：午前9時から12時：オフィス・ウィーク総括フォーラム

オフィス・ウィークにおける各イベントのまとめと討議

ディスカッサント：池島所長ならびに角田副所長

以上のように、チェンマイ大学との密接な交流から端を発したオフィス・ウィークにおいて、JSPS バンコク研究連絡センターの池島所長ならびに角田副所長には、多大な貢献をして頂くことになった。この場を借りて感謝の意を表したい。

なお、「海外交流拠点」をいかに育成していくかという論点において、地域社会をいかに捉えるかという学問的な視点が重要である。この点、このオフィス・ウィークの一環として、「グローバル社会の地域研究を考える」と題したフォーラムを開催した。若手を中心として内外の著名な地域研究者を招待して、「海外交流拠点」構想を念頭に置いた上で、今後どのような地域研究ならびに地域連携があり得るかを検討した。以下は、そのフォーラム II のプログラムである。

#### フォーラム II：「グローバル社会の地域研究を考える」

報告：

ブータン開発学研究の立場から

大阪大学

上田 晶子

ネパール人類学研究の立場から

立命館大学

渡辺 和之

シリア歴史学研究の立場から

東北大学

大河原知樹

ディスカッサント：

流通地理学の立場から

宮城学院女子大学

土屋 純

バングラデシュでの地域活動の立場から

グラム・バングラ

S. I. カーン



急激なグローバル化現象は、地域研究のあり方を見直しを迫られている。常に、世界中で絶え間なく進んでいる変化を多地点において、まずは同時に観察し、現実を知る必要がある。「地域に根ざす」という視点には、地域に留まり、地域外を見ないということではなく、地域の変化をきめ細かく分析し、比較できるということが不可欠である。「地域に根ざす」ことによつてのみ、知識基盤社会を充実したものにする事ができる。

そして、多地点を同時に観察することで得た地域情報に基づき、今後に向けての自分たちの立場と方向性を明確にし、将来に向けての様々な選択に際して舵を取る必要がある。オフィス・ウィークの様々な討議を通じて、香川大学が目指す「海外交流拠点」構想は、「地域に根ざす」香川大学が世界と対話できるための重要なツールになることが確認できたと考える。

その後、このオフィス・ウィークの成果を受けて、オフィス会議等で議論し、さらに現在も検討中であるのが、表に示した具体的な国際戦略である。この国際戦略については、国際化の基本方針そのものについても、今後さらに整理が進んで行くものと考えられるため、この素案は、2010年3月時点のものと考えて頂ければと思う。また、今後の検討次第では、基本方針そのものも変更が予想されるとはいえ、この素案がオフィス・ウィークでの一連の討議の一つの成果であると考ええる。

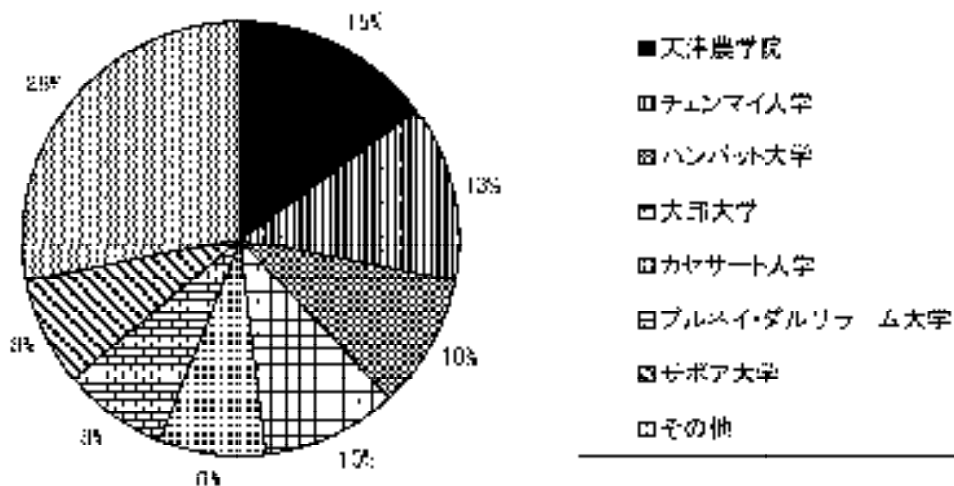
(2010年7月23日)

### 第3回チェンマイ大学・香川大学共催シンポジウムの開催進捗状況

国際ナショナルオフィス委員 徳田雅明 (医学部)

第3回チェンマイ大学・香川大学(CMU-KU)共催シンポジウムの開催については、2008年10月に香川大学において開催された第2回シンポジウムにおいて、開催は2年毎にすること、チェンマイ大学と香川大学が交代で主催することが決定した。2009年11月に日本学術振興会 JSPS が主催してチェンマイにおいて開催された 2nd International Forum: Role of Universities in Community/Regional Development に参加した国際ナショナルオフィスメンバー (村山と徳田) が、チェンマイ大学を訪問し、Daaroong 副学長および各学部の代表と準備会議を持ち、実施時期を8月～9月にすることとし調整すること、シンポジウムの形式についてはこれまでの2回のシンポジウムを継承し広く各分野の学術交流を行うこと、第3回シンポジウムとして適切なメインテーマを設け集中議論する部分も作ることを決めた。国際ナショナルオフィス会議でもこの方針が了承され、その後の交渉で、2010年8月24日、25日の両日にセッションを開催することとなった。その後2009年12月に、チェンマイ大学からメインテーマとして"Healthy Aging Society"にすることを提案があり、香川大学としても共通の課題を持つことや、多くの研究者が領域を超えて関与しうる適切なテーマであるとして了承した。おおまかなセッションの割り振りを入れたプログラム案と、26日に"Healthy Aging Society"のテーマに関連するフィールドトリップを組むことの提案があった。

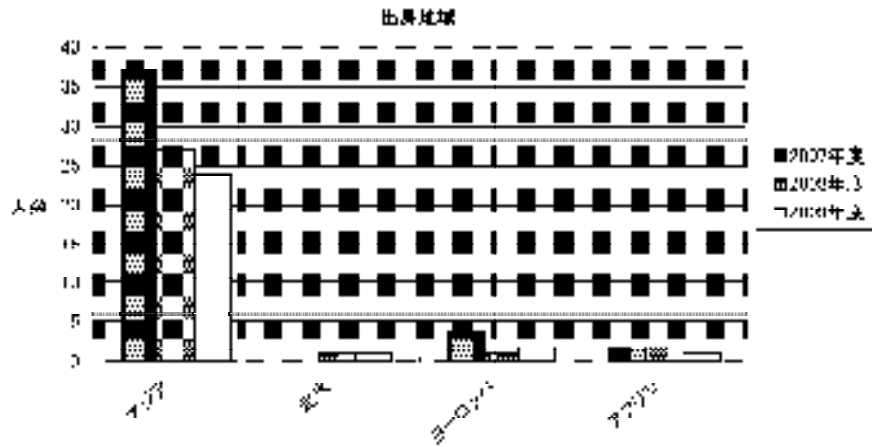




学校交流協定締結校からの受け入れ専員	件数
天津農学院	7
チェンマイ大学	6
ハンバット大学	5
大邱大学	5
カセサート大学	4
ブルネイ・ダルリラム大学	4
サボア大学	4
チュフロンコン大学	2
河内国科大学	2
ブルネイ・ダルサラーム国保健康	2
江田師範大学	2
コロラド州立大学	
クワイストチャイ 手総合技術大学人文学部	
プリアンシ (コロンビア大学)	
ロバート・ミッドleton 科学大学	
マゴル農業大学	1
グラム・バングラ	1

## 外国人研究者等の受け入れ状況

【外国人研究者の出身域について】



【地域別】

	アジア	欧州	欧州・アフリカ	アメリカ	合計
2007年度	27	3	4	2	43
2008年度	27	1	1	2	31
2009年度	27	1	2	1	28

【国別】

氏名	アジア			欧州・アフリカ		
	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度
大韓民国	1	1	2			
タイ王国	2	1	10			
中華人民共和国	21	15	2			
インドネシア共和国	3	1	2			
インドネシア共和国	1	2	2			
インドネシア共和国	1	1	1			

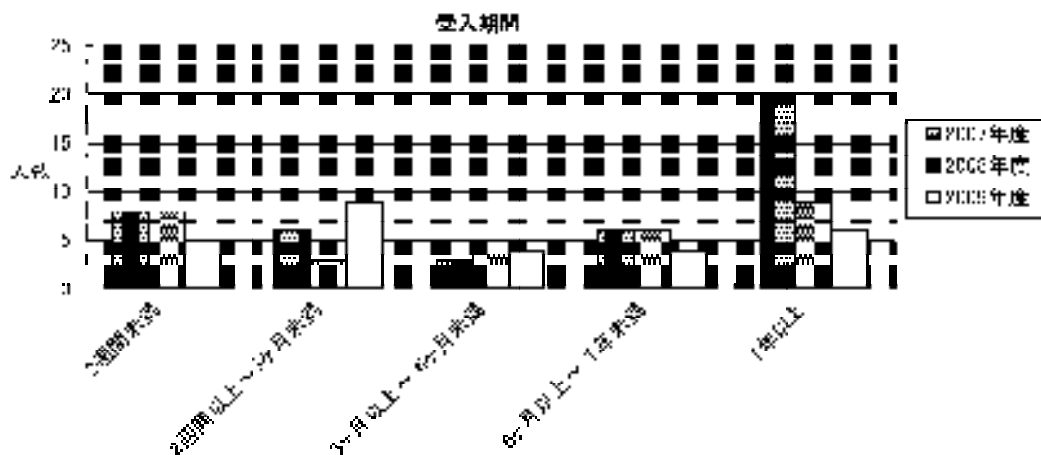
氏名	欧州		
	2007年度	2008年度	2009年度
ドイツ共和国	2	1	1

氏名	アメリカ		
	2007年度	2008年度	2009年度
アメリカ合衆国	2	2	

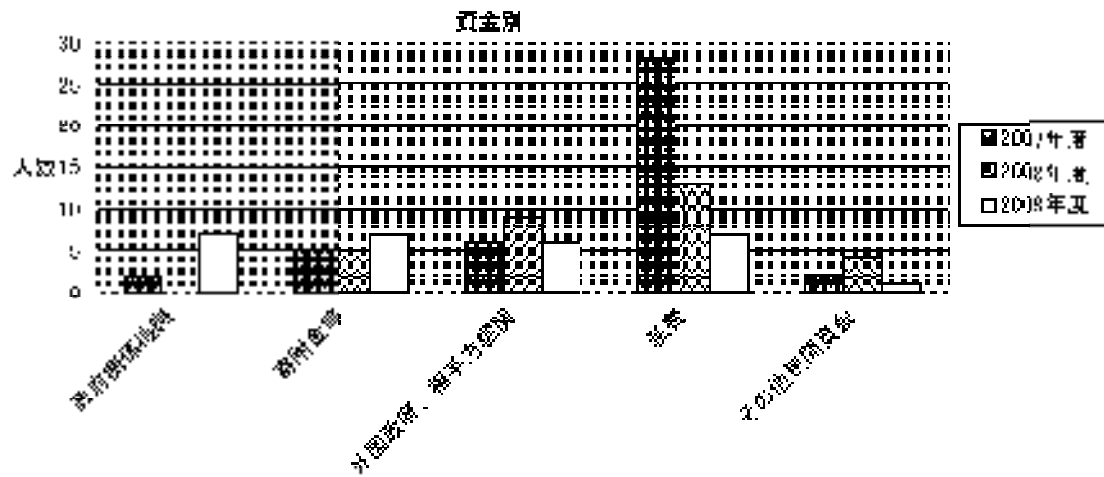
【受入期間】

年度	2週間未満	2週間以上 - 3か月未満	3か月以上 - 6か月未満	6か月以上 - 1年未満	1年以上	合計
2007年度	3	6	2	6	20	43
2008年度	2	2	5	6	9	31
2009年度	1	11	4	4	6	28



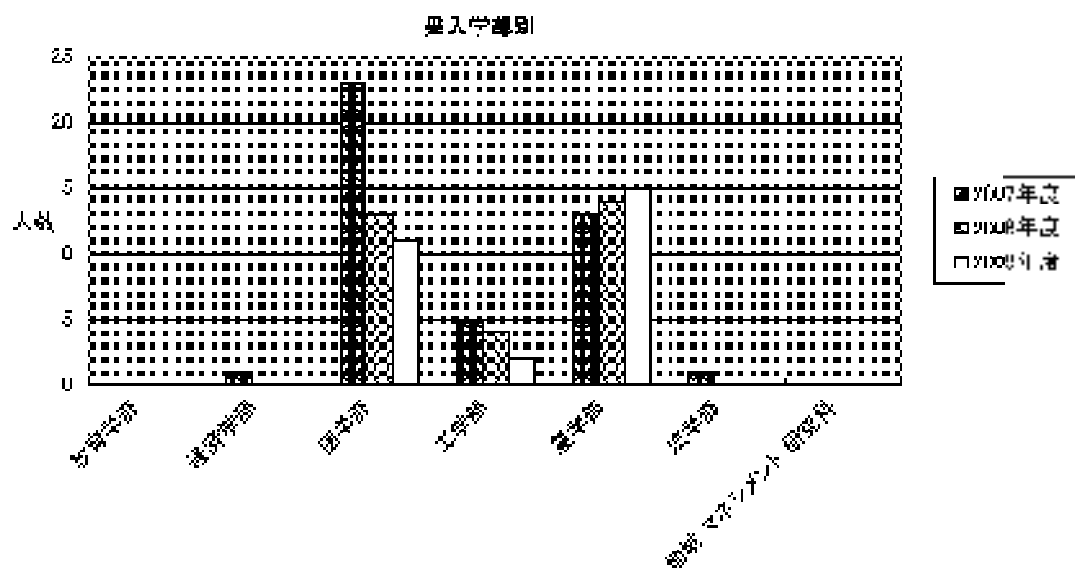
【資金別】

年度	政庁・関係機関	寄付金等	外口教育、 同千方機関	基金	その他民間資金	合計
2007年度	2	5	8	28	7	40
2008年度	0	5	8	10	2	31
2009年度	1	1	6	1	1	20



【受け入れ学部別】

年度	教育学部	経済学部	医学部	工学部	農学部	法学部	地域 マネジメント 研究科	合計
2007年度	0	0	2	0	13	1	0	40
2008年度	0	0	13	4	14	0	0	31
2009年度	0	0	1	2	15	0	0	20







## 日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

### 1. 概要

インターナショナルオフィスが平成21年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

- ① 日本語研修コース（初級）
- ② 日本語講座
- ③ 日本語補講
- ④ 農学部における特別講座（夜間）
- ⑤ 医学部における日本語サロン
- ⑥ 日本語語学研修プログラム
- ⑦ 短期（6ヶ月）日本語プログラム
- ⑧ アジア人財資金構想（高度実践）のビジネス日本語
- ⑨ アジア人財資金構想（高度専門）のビジネス日本語等

これらのうち、末尾の一覧に掲載されていないのは、⑥～⑨である。一方、インターナショナルオフィス以外から提供される以下の授業科目は、一覧に掲載している。

- ⑩ 全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、※で表記、単位あり）
- ⑪ 農学部 AAP コースの日本語・日本事情

⑥～⑨を一覧に掲載していない理由を個々に述べる。⑥は2週間のプログラムであり、⑦は⑩の授業科目およびそれ以外の共通科目や学部専門科目を受講するプログラムである。⑧⑨はアジア人財資金構想のための授業で、このプロジェクトの正規生以外も受講可能であるものの、一般の日本語授業と同様にとらえられると運営上支障が出る。また、特に⑧に関しては、プロジェクトの性質上、一覧作成時には開講時間が決定していないのも理由の1つである。

留学生への周知は、この一覧に基づき、ガイダンスや掲示を通して行っている。

### 2. 個々の項目について

以下では、インターナショナルオフィス提供の授業で、別稿で扱われていないものについて述べる。

#### ① 日本語研修コース（初級）

国費留学生の予備教育として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、週1コマの「日本事情」を含む。本年度は学生のレベルに合わせ、初級の授業が行われた。

② 日本語講座

③ 日本語補講

これらの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。②と③は、以前は位置づけに関しても区別されていたが、近年は予算的な面以外は同様になっており、どちらも本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのものである。

④ 農学部における特別講座（夜間）

日中は実験等のため日本語クラスへの参加が難しい農学部の学生、特に大学院生のために設置されていたが、AAP コースにおける日本語の必修化や、アジア人財の授業が開講されたこと等により、本講座は一定の役割を果たしたため、平成 21 年度をもって終了した。

本講座は 2 名のオフィス教員に加えて、2 名のボランティア講師が担当していた。

⑤ 医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って行っている。

平成21年度 前期 日本語関連授業一覧

□	授業科目 Subject	単位数 Credits	履修条件 Prerequisite	授業形態 Instructional Method	授業科目 担当教員 Instructor
Ⅰ 基礎	日本語Ⅰ Japanese Language I 152-1001	5単 5単位	履修条件なし Prerequisite None	対面 Face-to-face	
	日本語Ⅱ Japanese Language II 152-1002	5単 5単位			山口 隆 Takayama Takao
	日本語Ⅲ Japanese Language III 152-1003	5単 5単位			
	日本語Ⅳ Japanese Language IV 152-1004	5単 5単位			
Ⅱ 応用	日本語Ⅴ Japanese Language V 152-1005	5単 5単位			
	日本語Ⅵ Japanese Language VI 152-1006	5単 5単位			
	日本語Ⅶ Japanese Language VII 152-1007	5単 5単位			
	日本語Ⅷ Japanese Language VIII 152-1008	5単 5単位			
Ⅲ 特選	日本語Ⅸ Japanese Language IX 152-1009	5単 5単位			
	日本語Ⅹ Japanese Language X 152-1010	5単 5単位			
Ⅳ 総合	日本語Ⅺ Japanese Language XI 152-1011	5単 5単位			
	日本語Ⅻ Japanese Language XII 152-1012	5単 5単位			
	日本語Ⅼ Japanese Language XIV 152-1014	5単 5単位			
	日本語Ⅽ Japanese Language XV 152-1015	5単 5単位			
Ⅴ 選修	日本語Ⅾ Japanese Language XVI 152-1016	5単 5単位			
	日本語Ⅿ Japanese Language XVII 152-1017	5単 5単位			
	日本語ⅰ Japanese Language XVIII 152-1018	5単 5単位			
	日本語ⅱ Japanese Language XIX 152-1019	5単 5単位			

平成21年度 前期 日本語関連授業一覧

□	授業科目名 Subject Name	単位数 Credits	担当教員 Instructor	授業時間 Time	授業形態 Type
Ⅰ 基礎	日本語Ⅰ Japanese Language I 1521101	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅱ Japanese Language II 1521102	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅲ Japanese Language III 1521103	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅳ Japanese Language IV 1521104	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
Ⅱ 中級	日本語Ⅴ Japanese Language V 1521105	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅵ Japanese Language VI 1521106	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅶ Japanese Language VII 1521107	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅷ Japanese Language VIII 1521108	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
Ⅲ 上級	日本語Ⅸ Japanese Language IX 1521109	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅹ Japanese Language X 1521110	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅺ Japanese Language XI 1521111	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅻ Japanese Language XII 1521112	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
Ⅳ 総合	日本語Ⅼ Japanese Language L 1521113	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅽ Japanese Language M 1521114	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅾ Japanese Language N 1521115	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		
	日本語Ⅿ Japanese Language O 1521116	5単 5	1. 佐藤 隆夫 Dr. Takao Sato		

## 相談（交流推進）事業の報告

インターナショナルオフィス ロン・リム

本報告は平成21年の1月から12月までのデータによって作成したものである。ただし、平成21年4月から本学のインターナショナルオフィスが発足し、相談事業の体制は引き続き筆者が担当している。現実にはインターナショナルオフィスの4名の専任教員が学生からの相談を受けている。本学全体の相談の仕組みは、いたるところに設置されている。各部局の相談窓口をはじめ、保健管理室、セクシャル・ハラスメント相談員など、多数がある。本オフィスで受け付けている相談は、まず、独自に解決できるかどうかを見極める。対応範囲を超えた場合、適切な部署の相談窓口と連携を取って解決を探る。無論、全ての相談は100%解決出来るという訳ではない。恋人に振られた、あるいは卒業に必要な単位が取れないという相談を受ける際は、耳を十分に傾ければ、学生の気持ちが徐々に軽くなるケースもある。

表1：相談方法別の件数

	メール	電話	ファックス	来室	学内	学外	合計
1月	5	4	1	3	2	1	16
2月	2	2	0	8	1	0	13
3月	9	12	0	7	3	1	32
4月	6	18	0	13	5	3	45
5月	13	2	0	4	3	4	26
6月	24	4	0	3	0	1	32
7月	14	4	0	7	2	0	27
8月	2	1	0	1	4	0	8
9月	8	2	0	1	1	1	13
10月	3	0	0	2	0	0	5
11月	5	8	0	4	3	2	22
12月	6	1	0	3	0	0	10
合計	97	58	1	56	24	13	249

相談件数の計算の仕方は、電話1本あるいはメール1通を、1件としている。直接、研究室に来て相談を求めるものも1件と数える。集計したデータによると、去年は249件の相談があった（表1参照）。もっとも多かった相談方法はメールである（97件）。電話を通して相談を受けたのは58件で、直接研究室に来て依頼をしたのは56件だった。研究室の他に学内で相談を受けたのは24件で、同じく学外で相談依頼をされた件数は13件だった。

相談依頼者別に見ると、最も多かった（124件）のは留学生だった。それから教職員からの相談件数は56件あり、一般の方々からは52件あった。外部の教職員からの相談は9件、日本人学生からは8件だった。

表2：相談依頼者別の件数

	メール	電話	ファックス	来室	学内	学外	合計
1月	5	4	1	3	2	1	16
2月	2	2	0	8	1	0	13
3月	9	12	0	7	3	1	32
4月	6	18	0	13	5	3	45
5月	13	2	0	4	3	4	26
6月	24	4	0	3	0	1	32
7月	14	4	0	7	2	0	27
8月	2	1	0	1	4	0	8
9月	8	2	0	1	1	1	13
10月	3	0	0	2	0	0	5
11月	5	8	0	4	3	2	22
12月	6	1	0	3	0	0	10
合計	97	58	1	56	24	13	249

## 海外語学研修プログラムの報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

インターナショナルオフィスでは毎年、夏休みと春休みの期間中の海外（カナダ、オーストラリア、韓国）の大学での語学研修を学生へ紹介し、それらの大学へ学生を派遣している。平成21年度の研修先大学と期間は下記の通りである。

### 【カナダ】

ビクトリア大学（平成21年9月8日～9月29日<sup>i</sup>、平成22年3月1日～3月26日）

ブリティッシュコロンビア大学（平成22年3月1日～3月26日）

### 【オーストラリア】

サンシャインコースト大学（平成22年8月31日～9月25日<sup>i</sup>）

エディスコアアン大学（PIBT）（平成22年3月1日～3月26日）

ジェイムスック大学（平成22年3月15日～3月26日）

### 【韓国】

建国大学（平成22年2月22日～3月5日）

毎学期、海外語学研修ガイダンスを開催し、研修先大学や研修コースの紹介、ホームステイ、渡航中の危機対応などについて説明している。平成21年度は5月13日(水)と11月18日(水)に開催した。ガイダンスとあわせて、研修生の帰国報告会も行い、研修プログラムの内容や現地での生活、ホームステイの様子などを紹介してもらった。

最後に、ビクトリア大学（カナダ）での10ヶ月間の研修へ参加した大谷恵さん（教育学部4年）の体験談を紹介する<sup>ii</sup>。



## Wonderful Days in Victoria!!

Megumi Otani

I stayed in Victoria as an international student for about eleven months. Victoria is not such a big busy city as Vancouver. You can see wonderful nature and good sceneries like colorful flowers, beautiful ocean, lots of sermons coming up a river...etc. I think it is a good place to live in and concentrate on studying. One of my best memories is meeting people from various countries. First, I got a great family. My host family was from the Philippines. My host mother was not old; she was like my sister, and we talked a lot. She always offered delicious food. (I was able to eat RICE!) We shared time by going on trips, skiing, having parties and so on. Second, I got lots of FRIENDS from Korea, Mexico, Brazil, Japan, and so on. Before I went to Canada, foreign countries were just foreign countries; the world was too big for me. However, once I met them, issues or happenings in the world suddenly become closer to me. I headed downtown for shopping, having dinner, and visiting some hot spots after school. It was really fun! Third, I had great teachers who are cheerful, talkative, and always encouraged us. Finally, I joined volunteers and belonged to some clubs, where I could meet lots of native people. Volunteering is very common in Canada from the young to the old. It enlarged my small sight. If you have any chance, I recommend you take an action now!!!

- 
- i 平成 21 年度夏休みの海外語学研修は新型インフルエンザの拡大のため中止となった。
  - ii インターナショナルオフィスでは、夏休みや春休み以外の長期（半年以上）の研修も受け付けている。

## 海外語学研修に関するオーストラリア 4 大学での現地視察

インターナショナルオフィス ロン・リム

オーストラリアへの英語語学研修事業を円滑に運営するため、現地での視察は不可欠である。確認する事項はまず、現地での安全性や研修・宿泊施設の設備である。同時に各研修施設・国際交流センターの担当者との意識疎通をはかることによって今後オーストラリアへの語学研修派遣事業はさらに発展すると期待出来る。

今回、4 大学を訪問した。最初に訪問したのはブリスベン市にある University of Queensland である (クイーンズランド大学 (UQ))。大学のパンフレットによると、クイーンズランド大学 (UQ) はオーストラリアで一流の教育・学習・研究機関の一つであり、その評判の高い教育スタッフと世界レベルの施設、恵まれた環境のキャンパスは国際的に称賛されている。また、UQ には38,000名以上の多様な学生が集まり、120 カ国を超える7,500名の留学生在クイーンズランド南東部各地にある3つのすばらしいキャンパスで学んでいる。

訪問した部局は、UQ セント・ルシア・キャンパス内にある大学付属英語学校 (ICTEUQ) である。案内してくれたスタッフは Renee Winton さん (Regional Manager Market Development, Institute of Continuing & TESOL Education) だった。紹介してくれたコースは、一般英語 (General English) だった。このプログラムの内容は、英語のコミュニケーション能力に焦点を当てている。初級入門から上級まで、7つのレベルに分かれている。コースを受講する資格は特に求められないが、初日に学生のレベルをはかるためテストが行われ、その結果によって、適切なレベルのクラスに配置される。週に25時間の授業を提供され、最短受講期間は5週間である。内容は視聴覚機材を使用して、読み書きスキルのブラッシュアップをする。上級レベルの学生はオプションクラス (アカデミック、ビジネス、会話、IELTS 予備、映画、歌) を選択できる。年間を通して複数のコースが開催されるが、本学の暦と照らし合わせると、もっとも適切なプログラム期間は、8月30日から10月1日のプログラムである。宿泊に関しては、ホームステイの調整をする体制を取っている。一般的には、個室で、平日は2食 (朝食と夕食)、それから週末は3食 (朝食と昼食、夕食) が提供される。ホームステイの申請はプログラム申請の際、同時に行う。調整料の225ドルの他に、家賃として1週間で同じく225ドルが必要である。

次に訪問したのは James Cook 大学の English Language Centre である。James Cook 大学はクイーンズランド州で2番目に古い大学であり、メインキャンパスはクイーンズランド州の北にあるタウンズビル市とケアンズ市にある。総学生人口は16,000人で、現在、100カ国以上の国々から4,000人の留学生在 James Cook 大学で学んでいる。世界遺産に指定されているグレートバリアリーフが隣接していて、熱帯地域や雨林に囲まれている環境で、常夏の気候を有する地域である。訪問していた英語学習センターはケアンズ市の郊外にあった。対応してくれていたのは、センター長の Rachel Barber さんである。当センターは James Cook 大学が運営しているではなく、民間の語学学校に委託している。要するに、この語学学校は James Cook 大学の一角を借りて英語学習センターを運営している。施設はやや小規模で学生数も少なかったようだった。本学の学生にとって、一番適切なプログラムは General English courses であり、特定のプログラム開始日はなく、毎週の月曜日なら、いつでもプログラムに入ることが出来る。学習期間は1週間 (授業料は295ドル) か

ら何週間でも可能で、制限は定められていない。初歩から上級までのプログラムがあり、一週間に25時間の授業を開講している。リスニング、スピーキング、リーディング、それからライティングの他に、文法や発音の学習が出来る。宿泊はホームステイで、1週間の料金は225ドルで、調整費は180ドルである。

日 程	訪 問 先	対応してくれたスタッフ
2月26日	University of Queensland (クイーンズランド大学)	Renee Winton さん Regional Manager Market Development, Institute of Continuing & TESOL Education
3月1日	James Cook English Language Centre の研修・宿泊施設調査。	センター長の Rachel Barber さん
3月3日	University of the Sunshine Coast の研修・宿泊施設調査。	センター長の Emi Tamba さん
3月4日	Queensland University of Technology, QUT International College の研修・宿泊施設調査。	Michael Miller さん

3つ目の大学は University of the Sunshine Coast である。当大学は1994年に設立され、オーストラリアのもっとも新しい大学である。ブリスベン市の北方に立地し、100ヘクタールの膨大な土地を持っている。キャンパス内では、野生カンガルーが生息している風景が見られる。学部は3つで、現在の総学生人口は7,276人であり、本学と大体同じ規模の大学である。62カ国から、870人の留学生が当大学で学んでいる。案内をしてくれたのは、当大学のインターナショナルセンターの Emi Tamba センター長である。プログラムに関しては、昨年までは、本学の学生向けの一般英語プログラムを提供していたが、今年からは Academic 英語のプログラムしか提供していないことがわかった。一般英語プログラムは数週間から参加出来るが、Academic 英語プログラムの場合、最短の参加期間は一学期になる。本学の学生がもし、これらの Academic 英語プログラムに参加するとすれば、休学をしなければならない。今までの傾向を見ると、本学の学生にとっては、これらのプログラムはおそらく不向きと言えるだろう。

最後に訪問したのは、クイーンズランド州立工科大学 Queensland University of Technology である。1849年に設立されたもっとも古い美術系の学校を含めて、多数の専門学校の合併の繰り返しの結果、1989年に今日の大学が誕生した。また、当初は教員養成の学問が中心だったが、現在では、理科や文化系を持つ7学部の総合大学となっている。キャンパスはブリスベン市内に2つの他、近隣の町に3つ目のキャンパスを所有している。学生人口は40,000人ぐらいで、この中には海外からの6,000人の留学生が含まれている。案内して下さったスタッフはマーケティング部の Michael Miller さんとホームステイコーディネーターの Wendy Brown さんである。

英語の語学研修は、Kevin Groove キャンパスにある大学所属の QUT International College で実施している。5階の独自の建物を持って非常に設備が充実している施設である。例えば、学生専用の学習施設と娯楽施設の他、5つのコンピューター・ラボ（その内2つは24時間利用可能）を持つ

ている。それから、語学学習ラボ、個人学習センター、マルチメディア機能をもつレクチャー・シアターもある。さらに、学生専用食事室、リビングルーム、BBQ 設備付きの野外娯楽エリア等もある。他に運動場、ジム、プール、医務サービス等、キャンパス内のすべての施設・設備が利用できる。

本学の学生にとって、「一般英語」のプログラムが最も適切だと考えられる。本プログラムは、初心者から上級者まであり、個人のレベルに合わせて実施している。他の大学と大体同じように、初級クラスから上級クラスまであって、日本からの研修生は初級と中級のクラスに入るパターンが多いようである。最短参加期間は5週間で、50週間まで受講することができる。

筆者が深い印象を受けたのは、Miller さんの丁寧な説明だった。施設やキャンパスの案内をしてくれた時、多くの留学生たちが彼に挨拶し、また、彼は学生たちの調子を聞いたりしていた。留学生たちと日ごろよく顔を合わせていると感じた。同じく深い印象を受けたのはホームステイコーディネーターの Brown さんの仕事ぶりだった。留学生たちがプログラムに参加する際、満足度を大きく左右するのは、ホームステイ先との関わりであると Brown さんは主張する。とてもきめ細かく、しかも大変丁寧にホームステイの調整をしていると実感した。今回訪問した4つの大学の中で、最も推薦したいのはこの大学である。

## 「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業の報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

香川大学は平成19年度以降、経済産業省委託事業「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業を実施している。本事業は、日本の大学や大学院を卒業後、日本企業・日系企業への就職を希望する留学生を対象に、正課外科目として「ビジネス日本語・日本ビジネス教育」、県内日本企業でのインターンシップ、その他の就職支援を行っている。香川大学に加えて、高松大学の留学生も参加することが可能である。以下、平成21年度の本事業の具体的な取り組みを報告する。

### 1. 「ビジネス日本語・日本ビジネス教育」

本授業は、日本企業・日系企業のビジネス習慣、ビジネス・スキルおよびマナー、コミュニケーションなどの社会人基礎力を身につけることを目的とする。また、日本での就職活動を想定し、活動の進め方や情報収集の方法、面接対策なども実施した。平成21年度は「ビジネス日本語・日本ビジネス教育A」「ビジネス日本語・日本ビジネス教育B」「ビジネス日本語・日本ビジネス教育C」「ビジネス日本語・日本ビジネス教育D」の4クラスを開講し、小西先生（本学非常勤講師）と宝山先生（本学非常勤講師）、東原先生（本学非常勤講師）、正楽が担当した。以下、カリキュラムの一例を示す。

#### 「ビジネス日本語・日本ビジネス教育」カリキュラム一例

No.	月 日	テ ー マ	主 な 内 容
1	5月13日	日本での就職活動を始める前に(1)	日本で就職したい理由やこの講義への期待などを話し合う。
2		日本での就職活動を始める前に(2)	日本での就職や就職活動に対する不安と期待を共有し、不安を取り除く方法を考える。
3	5月20日	日本の新卒就職状況 外国人留学生の就職状況	最近の日本の大学生の就職状況を理解する。日本への外国人留学生の就職状況を理解する。
4		日本での就職活動(1)	日本での就職活動の特徴を知り、自分の就職活動の計画を立てる（採用スケジュールなど）。
5	5月27日	日本での就職活動(2)	日本での就職活動の特徴を知り、自分の就職活動の計画を立てる（自己分析や企業分析など）。
6		日本企業で働くこと(1)	日本企業・日系企業での実務経験者の話を聞き、日本企業の特徴や働くことの意味を考える。

No.	月 日	テ ー マ	主 な 内 容
7	6月3日	日本企業で働くこと(2)	日本企業・日系企業での実務経験者の話を聞き、日本企業の特徴や働くことの意味を考える。
8		人事担当者の話を聞く(1)	日本企業の人事担当者への質問を整理するとともに、社会人と接するときのマナーを学ぶ。
9	6月10日	人事担当者の話を聞く(2)	日本企業の人事担当者の話を聞き、日本での就職や就職活動について考える。
10		小括	日本での就職活動を始める前に準備しなければならないことを整理する。
11	6月17日	自分を知る(1)	自分の過去(これまで)を振り返り、自分の性格や向いている仕事を考える。
12		ビジネス日本語能力チェック(1)	ビジネス日本語能力テストを体験し、自分のビジネス日本語能力を確認する。
13	6月24日	自分を知る(2)	自分の将来(これから)を思い描き、やりたい仕事を考える。
14		自分を知る(3)	「自分年表」を作成し、向いている仕事ややりたい仕事を具体化させる。
15	7月1日	自分を知る(4)	自分の強みや武器、夢を具体化し、就職活動への生かし方を考える。
16		自分を知る(5)	自分の強みや武器、夢を具体化し、就職活動への生かし方を考える。
17	7月8日	就職内定者(外国人留学生)の話を聞く	先輩留学生の話を聞き、就職活動の準備や日本で働くことについて考える。
18		ビジネス日本語能力チェック(2)	ビジネス日本語能力テストを体験し、自分のビジネス日本語能力を確認する。
19	7月15日	自分を知る(6)	就職活動のアクションプランを発表する。
20		ビジネス日本語能力チェック(3)	日本語能力チェックリスト／社会人基礎力チェックリスト

## 2. 県内日本企業でのインターンシップ

「ビジネス日本語・日本ビジネス教育」と次に述べるその他の就職支援を通して学んだ知識とスキルを現場で実践する機会を提供するため、インターンシップ事業を実施した。平成21年度は、平成21年度生4名と平成20年度生の内1名、合計5名の留学生在県内の日本企業5社でインターンシップを実施した。実施期間は留学生により異なるが、夏休み中の約10日間である。インターンシップ先の企業は本事業のキャリアコンサルタントを中心に、県内の企業へアンケートを送付し、インターンシップ受け入れを了解下された企業の中から、留学生5名それぞれの志望業種や職種に応じて決定した。インターンシップ期間中は日誌への記入と受け入れ先企業担当者によるコメント、終了後は留学生による報告書を本学インターナショナルオフィスへ提出することとした。

インターンシップ終了後の10月16日(金)、「外国人留学生インターンシップ体験発表会・留学生採用支援セミナー」を開催した。田港副学長(国際・連携担当)の開会あいさつの後、インターンシップ体験発表を行った。インターンシップ体験発表会に続き、行政書士・社会保険労務士 吉井幸子様による「留学生採用の際の留意点について」のご講演を行った。当日は県内の日本企業関係者、本学及び高松大学の教職員、外国人留学生など、あわせて43名の参加があり、活発な議論を行うことができた。体験発表会の様子は翌17日(土)の四国新聞にも掲載された。

## 3. その他の就職支援

「ビジネス日本語・日本ビジネス教育」とインターンシップに加えて、本事業ではさまざまな就職支援(キャリアコンサルタントによる企業情報の提供や就職相談、日本企業による講演会、就職支援ガイダンスや企業見学会の実施、企業研究フォーラムの開催など)を実施している。下に、平成21年度の主な行事を示す。

2009年5月16日	平成21年度「アジア人財資金構想」四国地域合同開講式
2009年10月16日	外国人留学生インターンシップ体験発表会・留学生採用支援セミナー
2009年10月24日	留学生のための就職支援ガイダンス
2009年11月15日	留学生のための企業研究フォーラム
2010年1月15日	外国人留学生対象 企業見学会
2010年3月1日	平成21年度生修了式

「留学生のための就職支援ガイダンス」の様子を紹介する。当日は、高水先生(インターナショナルオフィス)の開会あいさつの後、大倉工業株式会社総務部・人事労務課 武澤係長による講演「会社案内と採用について」を行った。大倉工業様の事業概要と最新の採用情報を説明して下さった。続いて、日本での就職活動を経験した留学生と日本人学生によるパネルディスカッションを行った。本事業の平成19年度生と平成20年度生の他、県内の日本企業で活躍する元留学生、そして、平成22年春卒業の日本人学生、計4名の学生と社会人によるディスカッションである。ディスカッ

ションのコーディネートを、本学キャリア支援センターの津田副センター長(当時)にお願いした。日本での就職活動のスケジュールや要点、必要経費、留学生特有の難しさ、そして、留学生と日本人学生の就職活動の類似点や相違点など、実際の体験にもとづく話をしてもらった。会場の留学生からは、就職活動の情報の集め方や日本企業で働くことの(元留学生としての)難しさ、現在の仕事内容など、さまざまな質問が寄せられた。



## 「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業

### 「日本の食の安全」人財育成プログラムへの取り組み

インターナショナルオフィス 塩井実香

本学では、2007（平成19）年度以降、経産省による留學生の日本企業・日系企業への就職支援事業「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業に、四国地域の一実施大学として取り組んできました。これは、四国生産性本部を管理法人とし、四国内の大学（実施大学：香川・愛媛・高知・徳島の4大学、参加大学：高松大学・松山大学・松山東雲女子大学）がコンソーシアムを組んで、日本企業・日系企業への就職意思のある留學生を募り、ビジネス日本語・日本ビジネス教育、インターンシップ、就職支援を行うものである（詳細は、『香川大学留學生センター紀要』第3号47～50ページ、『同』第4号33～36ページ参照）。

2009（平成21）年度からは、新たに、「『日本の食の安全』人財育成プログラム」と銘打ち、「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業への取り組みも開始した。これは、本学が管理法人となり、香川県内の冷凍食品関係企業8社とコンソーシアムを組んで、日本国内外の冷凍食品業界で活躍できる留學生を育成するものである。

#### 1. 全体概要、事業体制

事業の全体像を、以下に簡単に紹介する（詳細は、本学農学研究科発行『平成21年度アジア人財資金構想高度専門留學生育成事業「日本の食の安全」人財育成プログラム報告書』参照）。

(1) プログラム名：「日本の食の安全」人財育成プログラム

(2) プログラムの概要：

冷凍食品を扱う企業や海外展開する日系食品企業とコンソーシアムを形成し、「日本の食の安全」の観点から、食料の育成・収穫・加工・流通・販売に至る総合的な食の安全向上能力を体系的に身につけさせ、日本語能力や日本文化をも正しく理解した優秀な国際人であり、且つ企業幹部となりうる人材を育成する。

(3) 事業の背景：

「日本国内で消費される農水畜産物の全てを自給するのは不可能である」こと、「近年国内全ての世代で共働き率が増加し、手間のかからない調理済み冷凍食品の購買が伸びた」こと、「高齢化に対応した施設等でも簡便な調理済み冷凍食品が多く活用されている」こと、「香川県を含む四国地域には冷凍食品産業が多い」こと、「香川県の冷凍調理食品の製造品出荷額は国内第1位である」こと、「本学農学部では食品科学関連の教育が充実し、食産業界の発展に貢献してきた」こと、等により、文科省・経産省による「アジア人財資金構想」高度専門留學生育成事業に申請・採択され、2009（平成21）年度より事業を開始した。

#### (4) コンソーシアム体制：

コンソーシアム参加企業は、味の素冷凍食品株式会社、伊勢丸食品株式会社、株式会社オープン、テーブルマーク株式会社、株式会社ニチレイフーズ、日本食研株式会社、株式会社ハマダフードシステム、株式会社ホワイトフーズの計8社である。

本学が管理法人として経産省・文科省より委託を受け、本学大学院農学部研究科内で実施する。企業から特任教授を2名迎えて「専門プログラム開発マネージャー」「インターンシップ・就職プログラム開発マネージャー」の任を依頼し、日本語教育関係は国際ナショナルオフィス留学生センターが担うこととし、塩井が「日本語教育プログラム開発マネージャー」を務める。

国際ナショナルオフィス長および留学生センター長も、コンソーシアムメンバーとして事業運営に関わる。

## 2. ビジネス日本語・日本ビジネス教育事業

以下、日本語教育プログラム開発マネージャーとして関わってきた、日本語教育関係の事業内容について、報告を行う。

### (1) 渡日前教育

1期生として採択されたのは、タイ人4名、中国人1名の計5名であったが、日本語学習をゼロからスタートさせるタイ人4名については、渡日前6～9月の4ヶ月間、本学交流協定大学で事前日本語教育を行った。具体的には、タイの2大学、すなわちチェンマイ大学とカセサート大学（いずれも本学交流協定大学）において、日本語教員との事前の協議・合意を経て、チェンマイ大学では人文学部日本語学科の日本語主専攻クラスに1名参加させ、カセサート大学では、大学附属の語学教育センターで専用のコースを組み、それに3名参加させる形をとった。授業はいずれも、会話力の伸長等を考慮して当該大学の日本人日本語教員が担当し、初級終了程度（日本語能力試験3級相当レベル）までの教育を行った。

なお、中国人1名については、採択時既に中級レベルの日本語力を有していたことから、渡日前に特定の授業等は行わず、自主学習に任せることとした。

### (2) 渡日後の教育

初年度となる本年度は、ビジネス日本語・日本ビジネス教育に入る前段階の日本語力底上げの時期と位置付け、修了単位にはカウントされない、いわば補講的な授業を週3コマ行った。授業実施にあたっては、日本語教育プログラム開発マネージャー、授業担当非常勤講師、本学日本語専任教員とで相談しながら使用教材の選定や授業計画の立案を行い、随時授業の進捗状況等を考慮しながら軌道修正や補講等を行った。授業では、主教材（四技能を伸ばすための総合教材）と併せて、学生の進度・理解度・必要性に応じて、漢字教材や理系用語導入のための教材も準備し、定期的に小テストや宿題を課しながら、知識の定着と運用力の向上を図った。

授業におけるビジネス日本語・日本ビジネス教育の本格的な実施は次年度からだが、BJT（ビジネス日本語能力テスト）受験前には、BJT対策の教材も利用し、受験対策を兼ねてビジネス日本語導入への準備を図った。

また、時季に応じて挨拶文の書き方を教え、実際に手紙を書かせたり、渡日後間もない段階から

インターンシップ(企業見学)の報告書を既習の語彙・文法を使って日本語で書かせたりするなど、場面や状況に応じた実践的な日本語使用の場を積極的に設けるように努めてきた。

### (3) 広報・リクルーティング

昨年度は、採択が決まって以降、1期生リクルーティングに係る広報の際、農学研究科教職員のタイ出張に同行し、日本語教育の立場から候補者選考に参加させてもらったが(2007(平成19)年12月~2008(平成10)年2月)、本年度も、11月および1月に、2期生リクルーティングのため、それぞれタイと中国へ同行した。

11月のタイ出張では、JASSO主催「日本留学フェア」(於チェンマイ、バンコク)への参加も用務であったことから、本事業について、1期生の出身大学であるチェンマイ・カセサート・チュラロンコンの3大学以外への大学関係者への広報も行った。

### (4) 自立化に向けて

アジア人財資金構想は、2012(平成22)年度より各大学・各コンソーシアムで自立化することが求められている。本学高度専門の場合、全国でも最後発組としての事業開始となったため、開始すると同時に自立化へ向けての準備も行わなければならない、という状況にあった。これは、くしくも、前述の中国出張中の1月に、民主党政権による第1回の事業仕分けで本事業が「廃止」と判定されたことも相まって、さらに喫緊の課題となった感がある。

自立化への展望に関し、まず渡日前教育の観点から述べる。

1期生はタイと中国の2ヶ国から受け入れたが、本学はタイ(特にチェンマイ)を重要な国際交流研究拠点の一つと位置付けているため、2期生以降は、受け入れ国を増やすにせよ、タイからはおそらく継続して受け入れるのではないかと予想される。タイは非漢字圏であること、理系の学生が学部在籍中に日本語を上級レベルまで学んでから渡日することはなかなか難しいと思われることもあり、今後もタイにおける渡日前教育は継続して行いたいと考えている。

1期生入学後、本年度中に2度タイの当該大学を訪問し、先方の日本語教員と今後の連携体制のあり方を協議してきた。チェンマイ・カセサート両大学とも、今後継続して渡日前教育に協力を得られることとなっており、2期生が決定し次第、次期渡日前教育の準備に向けて動ける体制は整っている。

渡日後の日本語教育については、基本的に1期生のカリキュラム体制を維持していく予定である。経産省からの資金援助が終了する自立化後は、授業運営も含め諸側面で資金が心配されるが、少なくとも日本語関連授業については現状を維持できるよう、学内関係者との調整を行った。

本学で実施されている高度実践留学生育成事業との連携のあり方については、今後の検討課題であるが、両事業の関係者で情報と問題意識の共有を図りつつ、今後の方向性を探っていく予定である。

## 第10回日本語語学研修プログラム報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

### 1. 研修の目的

外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に香川の歴史や文化を紹介すると共に、日本人及び地域社会との交流を図ることを目的にして研修を行いました。

### 2. 研修生

北京工業大学（中国）1名、南ソウル大学（韓国）3名、建国大学（韓国）3名、輔仁大学（台湾）3名、真理大学（台湾）2名、大邱大学（韓国）2名の合計14名

### 3. 研修期間

2009年6月29日(月)から7月24日(金)

### 4. 研修会場

- (1) 講 義 香川大学研究交流棟
- (2) 学外実習 栗林公園、玉藻公園などの香川県の歴史・文化施設
- (3) 体験学習 茶道、書道、華道

### 5. 研修内容

- (1) 日本語教育については、様々な内容の読解、聞き取り、ディスカッション、作文練習を行い、研修最終日に、自由なテーマで研修体験を発表しました。
- (2) 学外実習については、香川県内の文化施設などを見学しました。
- (3) 体験学習については、華道や茶道などの日本の文化を学習しました。

## 6. 研修日程

月	日	時 間	事 項
6月29日	(月)	10:30～ 13:00～14:50 17:30～	開講式及びガイダンス 聴解 担当：大野呂 情報交換会
6月30日	(火)	10:00～11:50 13:00～	総合 担当：高水 学外実習 『栗林公園』
7月1日	(水)	10:00～11:50 13:00～15:00	日本事情 担当：ロン 学外実習 『高松サンポート施設』
7月2日	(木)	10:00～11:50 13:00～14:50	読解 担当：高水 会話 担当：塩井
7月3日	(金)	10:00～11:50 13:00～14:50 15:00～	日本事情 担当：正楽 聴解 担当：塩井 ホストファミリーとの対面式
7月4日	(土)	終日	ホームステイ
7月5日	(日)	終日	ホームステイ／直島日帰り旅行（自由参加）
7月6日	(月)	～16:00	ホームステイ
7月7日	(火)	10:00～11:50 13:00～15:00	会話 担当：高水 企業見学 『石丸製麺』
7月8日	(水)	10:00～11:50 13:00～15:00	日本事情 担当：ロン 体験学習 『茶道』（香川大学裏千家茶道会）
7月9日	(木)	10:00～11:50 13:00～14:50	聴解 担当：高水 作文 担当：塩井
7月10日	(金)	10:00～11:50 13:00～14:50	日本事情 担当：正楽 会話 担当：塩井
7月11日	(土)		自由行動
7月12日	(日)		自由行動
7月13日	(月)	10:00～11:50 13:00～15:00	聴解 担当：大野呂 企業見学 『K S B瀬戸内海放送局』
7月14日	(火)	10:00～11:50 13:00～14:50	日本事情 担当：ロン 日本事情 担当：正楽
7月15日	(水)	10:00～11:50 13:00～15:00	会話 担当：高水 体験学習 『書道』（香川大学書道部）
7月16日	(木)	9:00～	学外実習 『金毘羅』
7月17日	(金)	10:00～11:50 13:00～14:50	読解 担当：高水 会話 担当：塩井
7月18日	(土)		自由行動
7月19日	(日)		自由行動
7月20日	(祝・月)		自由行動
7月21日	(火)	10:00～11:50 13:00～14:50	会話 担当：高水 日本事情 担当：ロン
7月22日	(水)	10:00～11:50 13:00～15:00	作文 担当：高水 体験学習 『華道』
7月23日	(木)	10:00～11:50 13:00～	作文 担当：塩井 学外実習 『玉藻公園』
7月24日	(金)	10:00～11:50 16:30～17:30 17:30～18:00 18:00～19:30	総合 担当：塩井 研修体験レポート発表会 修了式（修了証書授与） 意見交換・反省会

## 7. 研修を終えて

記念すべき第10回である今回は、中国と韓国、台湾の3カ国から計14名の研修生を受け入れることができました。6大学の内、本学の学術交流協定校は大邱大学（2005年5月協定締結）と南ソウル大学（2006年3月協定締結）、真理大学（2007年6月協定締結）、北京工業大学（2008年12月）の4大学です。本プログラムでのこれまでの受け入れ実績を見ると、南ソウル大学からは第8回の本プログラム以来4度目、大邱大学からは第3回以来2度目、建国大学と真理大学からは第9回に続いて3度目、輔仁大学からは2度目の受け入れとなりました。そして、今回初めて研修生を受け入れた大学は北京工業大学です。第9回同様、研修生の専攻も多岐に渡り、日本語の他、環境科学や建築学、教育学などでした。14名の内、中国から1名の参加、しかも、日本語専攻ではないことから、当初、我々受け入れ側は多少の心配をしておりました。しかし、一旦プログラムが開始されると、中国からの研修生も他の研修生と直ぐに仲良くなり、我々の心配は取り越し苦労であったことが分かりました。日本語でコミュニケーションが難しい場面では、英語を交えたり、身振り手振りで補ったりして、14名揃って、無事、4週間の研修を終えることができました。冬季の研修と異なり、夏季の研修は4週間です。また、7月は通常の学期中で、我々教員も正課の講義やその他の業務で多忙を極めます。こうした状況下で、本プログラムへの対応が十分にできるかどうかの不安は大いにあります。教員のみならず、職員の協力もいつにもまして貴重です。

学外実習について、これまでもご協力いただいていた石丸製麺株式会社様に加えて、新たに、株式会社瀬戸内海放送局様にご協力いただくことができました。第8回の本プログラムではNHK高松放送局様、第5回では四国新聞社様を訪問していましたが、趣向を変えて、地元の民放を学外実習の場所としてみました。日本人でも普段、なかなか見ることのできない放送局の現場を見学することができ、研修生にとっては貴重な体験となりました。毎回のプログラムへ入れている香川の観光名所などの見学について、第10回は栗林公園と玉藻公園、金毘羅宮を見学しました。真夏の日中、野外での見学は体力を消耗したことと思います。しかし、どの研修生も観光ガイドの説明を熱心に聴いたり、写真を撮ったり、楽しい思い出をつくったようです。体験学習では、茶道と書道、華道を体験しました。茶道と書道は本学の茶道部と書道部の学生へご協力いただきましたが、華道は第7回でご協力くださった明石様にお願ひすることができました。戸惑いながら慣れない手つきでお茶をたてたり、筆を使ったり、日本ならではの経験をすることができました。華道では、お花のみならず、浴衣を着る機会にも恵まれ、女性の研修生だけでなく、男性も、自分の浴衣姿に大変満足の様子でした。

研修終了後しばらくして、14名の研修生の中の1名が日本の大学院への進学を考えており、その準備を進めているとの連絡をいただきました。第9回の本プログラムの研修生同様、受け入れた側としては大変喜ばしいことです。

## 8. 今後に向けて

今回も、大きな問題もなく研修を終えることができました。しかし、新しい課題やいまだ解決されていない検討事項はいくつかあります。まず、研修生の日本語能力の差が挙げられます。複数の大学から、しかも、専攻を日本語に限定せず募集することから、多少の日本語能力の差はいたし方ありません。また、「日本語能力試験3級相当以上」を条件としているものの、数多くある同類の研修の中から、本学の研修を選んで応募してきてくれる研修生を、事前に厳しく選考するつもりはありません。一方、4週間という短い研修期間で、いかに日本語能力の向上や日本（人）に対する理解を深めてもらうのかを考えた際、やはり、日本語能力の高い研修生とそうではない研修生のいずれかに、多少の物足りなさ、反対に、難し過ぎるという印象を与えてしまいます。日本語能力の差の広がりや緩和するため、書面による事前の自己申告だけでなく、応募者多数の場合には、何らかの方法の簡単なプレテストを課すなどの策も講じる必要があるかも知れません。

次に、今回に限らず、我々受け入れ側が、本研修を受講したことで、日本語や日本（人）、そして、香川の歴史や文化に対する研修生の理解がどのように変化したのかを知っておく必要があります。これは、本研修の目的が「外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に香川の歴史や文化を紹介すると共に、日本人及び地域社会との交流を図ることを目的」としている限り大変重要なことです。研修直後の簡単なアンケートは毎回実施していますし、日本留学フェアなどで海外を訪れた際、派遣元の大学のご担当者様と意見交換をするようにはしています。しかし、研修直後の研修生は、研修を終えて帰国することの高揚感からか、概して肯定的な意見をもちますし、派遣元の大学のご担当者様との意見交換でも、研修内容そのものについて深く議論するまでにはいたりません。研修生に、研修終了後暫く後に研修を改めて振り返ってもらい、本研修が彼らの勉学的意欲を含めた期待に応えるものであったのか、日本語や日本（人）に対する理解は深まったのかを調べる必要性を感じています。本研修が今後も回を重ねていくことを考えると、一度立ち止まって、これまでの研修をじっくりと振り返ることが必要かも知れません。

最後に、ホームステイにまつわる課題を述べておきます。毎回、ホームステイは研修生の一二を争う楽しみです。第10回を迎え、ご協力くださったホストファミリーも総計99家庭となりました。貴重な週末を研修生と共に過ごしてくださるホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。同時に、「ホームステイは本研修にどのような効果をもたらしてくれているのか」を知る必要性も感じています。ホームステイ終了後の研修生は週末の楽しかった思い出を語ります。また、ホームステイ前と後とでは、授業などでの発言や態度にも変化が見られます。ホームステイが概して良い効果をもたらしてくれていることは確かです。しかし、それがどのような効果なのかを具体的に知ることで、より良い研修、そして、ご協力くださるホストファミリーとのつながりをさらに深めていけるのではないかと考えます。

## 第11回日本語語学研修プログラム報告

インターナショナルオフィス 塩井実香

### 1. 研修の目的

従来どおり、「外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に川の歴史や文化を紹介するとともに、日本人及び地域社会との交流を図ること」を目的として行った。また、この研修をきっかけに、本学へ正規留学してくれることを願う呼び水効果の意図も、これまでと変わらない。

### 2. 研修生

定員を15名と定めて募集し、14名の参加を得た。内訳は、中国より2名（いずれも北京工業大学より）、韓国より9名（建国大学1名、真理大学3名、ハンバット大学5名）、台湾より3名（いずれも輔仁大学より）で、全員女性であった。

本研修に中国から参加があったのは、前回第10回の北京工業大学からの1名が初めてであったが、今回は同大より2度目の中国人学生の参加となった。前回の1名が本研修に満足して帰国したことの効果とも考えられる。

なお、本研修は、複数の国・地域・大学から学生を受け入れて交流を図るハブ的役割を目指すため、1大学からの参加は3名以内と定めている。ただ今回は、期日までの応募者が15名を満たさなかったこと、ハンバット大学側からの強い要望があったことにより、後日同大より追加応募を受け付けたため、結果的に同大のみ1大学から5名の参加となった。

### 3. 研修期間

2010年1月25日(月)から2月5日(金)までの2週間を設定した。冬季研修では、参加国・地域の事情を考慮し、例年、極力旧正月に重ならないよう設定するが、今回は、本学側の学年暦等との関係で、旧正月と重ねざるを得なくなったことは残念であった。（そのおかげで、前述のとおり、ハンバット大学からの3名以上の受け入れ希望をかなえることはできたが。）

### 4. 研修日程と時間割

以下の日程で行った。



月	日	時 間	事 項
1月25日	(月)	10:00~10:30 10:30~ 13:00~13:50 14:00~14:50 17:30~	受付(生涯学習教育研究センター第2講義室) 開講式及びガイダンス(生涯学習教育研究センター第2講義室) 総合 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 総合 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 情報交換会(大学生協1階)
1月26日	(火)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~	日本事情 担当:ロン(生涯学習教育研究センター第2講義室) 日本事情 担当:ロン(生涯学習教育研究センター第2講義室) 学外実習 『栗林公園』
1月27日	(水)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~	会話 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 会話 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 体験学習 『茶道』(香川大学表千家茶道会)(幸町会館 )
1月28日	(木)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~13:50 14:00~14:50	聴解 担当:大野呂(生涯学習教育研究センター第1講義室) 聴解 担当:大野呂(生涯学習教育研究センター第1講義室) 読解 担当:塩井(生涯学習教育研究センター第1講義室) 読解 担当:塩井(生涯学習教育研究センター第1講義室)
1月29日	(金)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~13:50 14:00~14:50 15:00以降	日本事情 担当:正楽(生涯学習教育研究センター第3講義室) 日本事情 担当:正楽(生涯学習教育研究センター第3講義室) 会話 担当:塩井(研究交流棟5階研究者交流スペース) 会話 担当:塩井(研究交流棟5階研究者交流スペース) ホストファミリーとの対面式(生涯学習教育研究センター第2講義室)
1月30日	(土)	終日	ホームステイ
1月31日	(日)	終日	ホームステイ
2月1日	(月)	16:00まで	ホームステイ
2月2日	(火)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~15:00	日本事情 担当:ロン(生涯学習教育研究センター第2講義室) 日本事情 担当:ロン(生涯学習教育研究センター第2講義室) 学外実習 『四国村』

月	日	時 間	事 項
2月3日	(水)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~15:00	作文 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 作文 担当:高水(生涯学習教育研究センター第2講義室) 体験学習 『華道(明石先生)』(生涯学習教育研究センター第2講義室 )
2月4日	(木)	10:00~10:50 11:00~11:50 13:00~13:50 14:00~14:50	聴解 担当:大野呂(生涯学習教育研究センター第1講義室) 聴解 担当:大野呂(生涯学習教育研究センター第1講義室) 作文 担当:塩井(生涯学習教育研究センター第1講義室) 作文 担当:塩井(生涯学習教育研究センター第1講義室)
2月5日	(金)	10:00~10:50 11:00~11:50 16:30~17:30 17:30~18:00 18:00~19:30	総合 担当:正楽(生涯学習教育研究センター第3講義室) 総合 担当:正楽(生涯学習教育研究センター第3講義室) 研修体験レポート発表会(研究交流棟5階) 修了式(修了証書授与)(研究交流棟5階) 意見交換・反省会(大学会館2階 第1集会室)

## 5. 授業・学外実習・体験学習

授業科目の設定は従来どおりである。ただ、ホームステイ前の「日本事情」クラスでは、円滑なホームステイ実施のため、日本の家庭生活についての説明や、ステイに係る注意点の周知の徹底を図った。

学外実習では、研修期間が2週間と限られていることから、従来行った先の中から「栗林公園」と「四国村」の2か所に絞って行くこととした。

体験学習の内容も、従来から変更はないが、「茶道」に関しては、本学に茶道サークルが3つ(表千家、裏千家、石州流)あることから、本学学生の国際交流の機会を広げる意味でも、前回とは異なる流派の「表千家」に依頼することとした。

## 6. その他

毎回研修生に評価の高いのがホームステイであるが、ご登録くださっているボランティア家庭の中から、各回の学生数に応じたご家庭を確保するのはなかなか難しい。特に今回は、都合の合うご家庭が少なかったため、新たに2家庭、直前にお声かけし、ご登録いただき、ご協力を願うこととなった。また、それでも、研修生14名に対し10家庭しかご都合が合わなかったため、基本的には1家庭に1名受け入れていただいているところを、新規1家庭を含む4家庭に、2名ずつ受け入れていただくこととした。

研修生の定員を15名に定めているのは、幸町会館の宿泊可能数によるものだが、今回の反省事項として、今後はホストファミリーの確保も考慮し、定員を削減することも検討することとした。

## 7. 今後に向けて

研修生募集の際、「日本語能力試験3級相当以上」を条件とし、申込時に本人および担当教員等による日本語力の自己申告もしてもらおうのだが、それでもやはり、今回も、3級に満たない学生も参加していた。書面による事前の自己申告の難しさを痛感する。渡日後日本語が通じない本人たちが一番大変だろうが、授業を行う教師も、周りの研修生も、交流をしてくれる ICES 等の日本人学生も、それぞれに苦勞することとなる。そして、最も影響を被るのが、日本語力の不十分な学生を受け入れてくださるホストファミリーの皆様である。今回も、新規のご家庭を含め、ステイ中の意思疎通に苦勞をおかけした家庭がいくつかあったことは、大変申し訳ない。せっかくのホームステイが、学生・ホストファミリー双方にとって満足いかないものとなるのは、我々教職員としても非常に心苦しく残念である。受け入れ学生の日本語力の事前把握は、今後の大きな課題の一つである。

とはいえ、今回は、珍しく研修生全員が女性ということもあってか、学生同士は日を追うごとに打ち解け、非常に仲良くなっていた。特に、中国と台湾の学生が、当初は先入観もあったようだが、互いに交流し意見交換する中でわだかまりが取れ、お互い知り合えたことを非常に感謝しながら帰国の途についたのは、2週間見てきた我々としても、予想以上の嬉しさがあった。本研修が、我々の意図した以上のハブ的役割を果たせていたのではないかと思う。

本研修も二桁を数えるまでに実績を重ねていくことができ、毎回反省をもとに改善を試みている。今回は、本学教職員の負担軽減と、ある程度の日本語ができるはずの研修生の勉強も兼ねて、渡日時の本学教職員による出迎えをしないこととした。渡日直後の学生とタクシー運転手とのやりとり等、ごく一部を除いては概ね問題なかったようなので、今後もこのやり方を継続する予定である。

2009（平成21）年4月より新たにインターナショナルオフィスができ、留学生センターはその中に位置づけられることとなった。このことと、本研修が二桁を数えるまでになったことから、一つの区切りとして、第10回研修までを総括する報告書を作成することとなった。これを一つの節目として、次年度からもよりよい研修を目指して、教職員一丸となって取り組んでいきたい。

## 2009年度短期（6ヶ月）日本語プログラム報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

### 1. 本プログラムと大邱大学の現地学期制

2009年度も、韓国大邱大学より5名の学生を短期（6ヶ月）日本語プログラムに受け入れた。本プログラムは、協定大学である大邱大学より学生を受け入れ、日本語を中心とした授業を提供するものである。

このプログラムが成立する大きな要因として、大邱大学の現地学期制の存在がある。この制度は、大邱大学の学生が、留学先の大学で取得した単位を持ち帰ると、大邱大学の単位として認定されるというもので、単位互換ではないが、学生の立場からはそれに類似した制度である。この制度での留学期間は、その名称が示すとおり、学期、つまり半年である。

本学では、本プログラムの学生を受け入れるために、毎年「確認書」を交わしている。本プログラムに参加する学生は、交流協定に基づく授業料不徴収の特別聴講学生ではなく、本学の制度に基づき単位あたりの受講料を支払う科目等履修生である。したがって、この学生交流は、協定外の交流となる。

### 2. 本プログラムの参加学生

後に示す時間割の通り、本プログラムの必修授業には、ある程度以上の日本語力を要求するものが含まれている。また、学生は本学が提示した選択科目から、自由に選択することも可能である。その際、選択科目は日本人学生が中心となる、全学共通科目が大半であり、それ以外の選択科目は高度な日本語力を必要とする日本語科目である。したがって、本プログラムの参加学生には、原則として日本語能力試験1級（ないしN1）のレベルを要求している。

単位取得上の問題が生じる可能性の他にも、不満をもった状態で本学への滞在を続けることも、避けるべきという理由で上記のような原則を設けているが、実際には2級程度の学生も参加している。このような学生の参加に際しては、大邱大学側の担当教員にも確認を取り、一部の単位が取得できない可能性についても十分に説明している。

これは単なる脅しではなく、実際に一部の授業の単位を取得できなかった学生もあり、本学としてはこのような事態はできる限り避けたいと考えている。一方で、大邱大学側の担当教員には、取得できなかった単位がある学生でも、全体としては明らかに日本語能力が向上している点を評価していただいているようである。

2009年度のもう1つの特徴は、全員が女子学生だったことである。日本においても、語学や留学に関しては、一般的に女子学生のほうが積極的だが、韓国でもそのような傾向があることを伺っているし、実際、昨年度までも女子学生のほうが多かった。

### 3. 本学学生との交流

本プログラムの参加学生は、全て大邱大学からの学生である。本学においては、韓国からの留学生は近年まで少なかったが、最近では本プログラム以外にも、特別聴講学生を中心に増加してきた。これらの韓国人留学生同士の交流は、密に行われている。

本プログラムの学生は、上記の通り、日本語の授業に多く出席している。そのため、他の留学生とも接触の機会が多い。とりわけ、教育学部が受け入れている留学生とは、プログラムの特性上同じ授業に出席することが多く、その分交流頻度が高いようである。

日本人学生とは、ICESの学生の他、必修授業の1つである、教育学部の授業においてグループワークをする学生などとの交流が多い。

2009年度やや残念だったのは、本プログラムの参加学生の一部が、留学生対象行事への参加にあまり積極的ではなかったことである。6ヶ月という決して長くはない留学の機会なので、文化を体験する意味も含め、行事には積極的な参加を望んでいる。

#### 4. 受講科目

2009年度に実際に学生が受講した授業科目は、以下の通りである。

本プログラム学生の受講科目

科目名	曜日・時限	単位数	担当教員
日本語Ⅰc	火2	1単位	高水
日本語Ⅱa	水2	1単位	佐藤
日本語Ⅱb	水3	1単位	佐藤
日本語Ⅱc	木2	1単位	塩井
日本事情Ⅱa	木3	2単位	ロン
日本事情Ⅱb	金2	2単位	早川
国際社会と日本・日本語	月5	2単位	ロン他
国際比較文化研究	木4	2単位	平

## 留学生対象各種進学説明会 外国人学生のための進学説明会2009

インターナショナルオフィス 塩井実香

2009年7月12日(土)、グランキューブ大阪にて開催されたJASSO主催「平成21(2009)年外国人学生のための進学説明会」に参加した。例年本学からは、留学生センター教員と国際グループ(旧留学生グループ、留学生課)職員とで参加していたのだが、今年度は、アドミッションセンター大阪オフィスの協力も得ることとし、国際グループ宮脇みどりチーフ、大阪オフィス南野やよい特任助教、塩井の3名で参加した。

後日のJASSOからの報告によると、大阪会場の来場者は1,453名だったとのこと。前年度は1,608名だったそうなので、全体の来場者数自体はそう多くはなかったと言えるが、本学ブースに限ってみると、前年度の来場者が35名だったのに対し、今年度は61名で、かなりの盛況だったのではないかと思う。

海外での留学フェアでは、四国あるいは香川がまだ十分認知されていないことも多く、ブース来訪者に対しては地理的な説明・紹介から始めることが多い。それに対し、国内での説明会では、既に日本語学校等である程度進学目標を定めて学んでいる外国人学生等が対象となるため、志望学部や志望分野を絞ったうえで情報収集をしに来る学生が多く、入試や学部・学科の内容、学費、物価、住環境その他、具体的な説明を行うことが多かった。また、編入学や大学院進学に関する質問も、予想していたより多かった。さらに、学生のみならず、岡山など近隣の日本語学校関係者も多く訪れており、実際に本学に毎年学生を送り込んでくれている日本語学校教員と情報交換できたのも、有意義であった。

今回初めてアドミッションセンターの協力を得てみて、我々としても資料準備や実際の説明の仕方などで学ぶところも多かった。例えば、来訪者配布用資料と説明・閲覧用資料の区別、大阪から香川までの具体的な複数の移動方法の説明、オープンキャンパスの情報提示など、従来の我々のやり方よりも効果的だと感じる方法がいくつかあり、参考になった。

オープンキャンパスということ言えば、例年、本説明会の時期が、本学の入試要項の出来上がり時期より若干早いため、来訪者に最新の入試情報を伝えられないのを残念に思っていた。しかし今回は、そのことを逆手にとって、オープンキャンパスへの参加や本学ホームページへのアクセスによるさらなる情報収集を積極的に勧める、というのも、広報の一つの方策であると感じることができた。

大阪にサテライトオフィスがあるという本学の地の利、入試・広報関係のプロであるアドミッションオフィスの力も活かしつつ、今後とも本学を受験し入学する留学生の増加につなげられるべく、よりよい広報活動に努めていきたいと思っている。

## 2009 年度日本留学フェア

(編注：台湾の報告は記録のため『香川大学インターナショナルオフィスニュース』第1号より転載、一部表記を改変。)

### 台湾

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

平成21年7月18日(土)と19日(日)の2日間、独立行政法人日本学生支援機構主催の「日本留学フェア(台湾)」へ参加した。本学からは入試グループの後藤サブリーダーとインターナショナルオフィスの正楽が出席した。

フェアの後、真理大学(2007年6月協定締結)と輔仁大学、財団法人交流協会台北事務所を訪問し、本学との交流事業や日台の留学事情について意見交換を行った。

### タイ

インターナショナルオフィス 塩 井 実 香

JASSO 主催の「日本留学フェア(タイ)」が、2009年11月17日(金)にチェンマイ、28日(土)にバンコクにて開催された。本学からは、2007年度までの数年間は、受け入れ留学生増を望む韓国および台湾でのフェアに参加していたが、チェンマイ大学を海外教育研究交流拠点と位置付けていること、2009年度より開始の「アジア人財資金構想高度専門留学生育成事業」においても、タイの複数大学との連携強化を目指すことから、2008年度よりタイでの留学フェアにも参加することとなった。

通常、フェア参加時には、1大学1ブースを設けるのだが、今回は、前述の「アジア人財」のPRにも力を入れるべく、チェンマイ会場のほうでは、インターナショナルオフィスと農学部との2ブース設け、広報・留学相談に努めた。なお、本学からの参加者は、インターナショナルオフィスより、国際グループ藤川チーフと塩井の2名、農学部よりアジア人財担当教職員6名であった。

フェアの参加者層、よくなされる質問等は、国・地域によって異なるが、タイに関しては、前年度参加者からの引き継ぎ事項を活かし、通訳者を充実させたり(バンコク会場では2名委託)、ブースの飾り付けや展示を工夫したりした。それが功を奏してか、フェア自体の総来場者数は前年度より若干減少したものの、本学ブース来訪者は増加した。

フェア終了後のJASSO発表によると、チェンマイ会場来場者数は551名(参考：前年度568名)、バンコク会場来訪者は1,596名(前年度1,710名)、総計2,147名(前年度2,287名)とのこと。うち本学ブース来訪者は、チェンマイ会場46名(ただし、塩井担当のインターナショナルオフィスブースでのカウント数のみ)、バンコク会場106名であった。特にバンコク会場での増加が目立った(前年比2割増)のは、週末と重なっていたことも一因かと推測される。

なお、JASSOによると、「チェンマイでは、アビシット首相の来訪に反対する反独裁民主戦線(UDD)による大規模な集会等が予定されていたため、チェンマイ市および郊外の学校数校が休校

となるなど、フェアへの影響が心配されたが、昨年度と同程度の来場者数であった。」とのことであった。

参加してみて印象に残ったこととしては、理系志望者が多いこと、若い学生や保護者の来場が多いこと（高校生が目立ったが、本学ブース最年少来訪者は、日本好きの8歳の男の子だった）が挙げられる。また、タイは日系企業が多く、日本語学習熱も高いためか、会場内に着物・書道・折り紙の体験コーナーや、寿司が食べられるコーナーが設けられるなど、日本そのものを知るための演出が多く見られ、台湾や韓国のフェアとはまた違った雰囲気であった。



## 香川大学インターナショナルオフィス規則

### (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の2の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

### (構成)

第3条 オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

- (1) 国際研究支援センター
- (2) 留学生センター

2 前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

### (業務)

第4条 オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。
- (2) 国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。
- (3) 国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。
- (4) 国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。
- (5) 地域における国際交流の支援に関すること。
- (6) 国際交流に係る危機管理に関すること。
- (7) その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

### (組織)

第5条 オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) オフィス長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 オフィスに副オフィス長を置くことができる。

3 オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

(オフィス長)

第6条 オフィス長の任命は、本学教職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。
- 3 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(オフィス長の選考時期)

第7条 オフィス長の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
  - (2) 辞任を申し出たとき。
  - (3) 欠員となったとき。
- 2 オフィス長の選考は、前項第1号の場合には任期満了の一月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに、行うものとする。

(副オフィス長)

第8条 副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。
- 3 副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。
- 4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

(兼任の教員)

第10条 兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

- 2 兼任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 11 条 オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2 オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

(事務)

第 12 条 オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

2 第 11 条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

## 香川大学インターナショナルオフィス会議規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

### (組織)

第2条 オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) オフィス長
- (2) オフィス規則第5条第2項に定める副オフィス長
- (3) オフィス規則第3条第1項に定める組織の長
- (4) 専任教員
- (5) オフィス規則第5条第3項に定める兼任の教員
- (6) 教育・学生支援部長
- (7) 学術部長
- (8) 国際グループリーダー
- (9) その他オフィス長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員は、学長が任命する。

### (審議事項)

第3条 オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項
- (2) 規則その他の制定又は改廃に関する事項
- (3) 組織の設置又は廃止に関する事項
- (4) 教員の選考に関する事項
- (5) 予算及び施設・設備に関する事項
- (6) 評価に関する事項
- (7) その他オフィス長が必要と認める事項

### (会議の主宰及び議長)

第4条 オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

2 議長は、オフィス会議を主宰する。

3 オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

### (会議の議事運営)

第5条 オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 3 第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。
- 4 第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(事務)

第7条 オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

## 香川大学国際研究支援センター規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。
- (2) 海外の研究機関との交流に関すること。
- (3) 海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。
- (4) 海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。
- (5) 各部局が実施する学術交流の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

### (職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

### (センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

## 香川大学留学生センター規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という）第3条第2項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生の受入に関すること。
- (2) 留学生に対する日本語等の教育に関すること。
- (3) 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関すること。
- (4) 留学生に係る奨学に関すること。
- (5) 留学終了者に対するフォローアップに関すること。
- (6) 学生の海外留学に関すること。
- (7) 地域における留学生交流に関すること。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関すること。
- (9) 留学生会館の管理・運営並びに入退居に関すること。
- (10) その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関すること。

### (職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
  - (2) センター担当教員
  - (3) その他必要な職員
- 2 センターに、副センター長を置くことができる。

### (センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。



4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

## インターナショナルオフィス教職員一覧

H21.4.1

教 員 ※ (兼) は兼任を示す

《インターナショナルオフィス》  
(兼) オフィス長 / 教授 / 村山 聡  
(教育学部)

(兼) 副オフィス長 / 教授 / ロン・リム

講師 / 高水 徹

講師 / 塩井 実香

講師 / 正楽 藍

(兼) 教授 / 村上 博 (法学部)

(兼) 教授 / 徳田 雅明 (医学部)

(兼) 教授 / ラナデ・ラヴィンドラ・ラグナット  
(経済学部)

(兼) 教授 / 田村 啓敏 (農学部)

(兼) 教授 / 板倉 宏昭  
(地域マネジメント研究科)

(兼) 准教授 / 澤田 秀之 (工学部)

(兼) 准教授 / 高木由美子 (教育学部)

《国際研究支援センター》  
(兼) 国際研究支援センター長 / 村山 聡

《留学生センター》  
(兼) 留学生センター長 / ロン・リム

非常勤講師 / 大野呂節子

非常勤講師 / 小西 勝己

非常勤講師 / 早川 理代

非常勤講師 / 東原 實

非常勤講師 / 宝山 秀逸

非常勤講師 / 和田 方子

事務職員

《国際グループ》  
リーダー / 長岡 篤  
担当 総括

サブリーダー / 横山 秀樹  
留学生業務

サブリーダー / 宮下真来枝  
国際交流業務

チーフ / 藤川 勝  
留学生業務 / アジア人財業務

チーフ / 宮脇みどり  
インターナショナルオフィス業務

グループ員 / 浅野 文恵  
国際交流業務

グループ員 / 宗田 真美  
留学生業務

グループ員 / 八木綾衣子  
国際交流業務

グループ員 / 小延 由香  
留学生業務 / アジア人財業務

グループ員 / 野田 順子  
国際交流業務

グループ員 / 河合江都子  
留学生会館業務